インバウンド向け

登山ガイドハンドブック

国土交通省　北陸信越運輸局

目　次

1. Introduction 2

2. 世界のガイド事情 3

3. 段取り 5

Chapter　1: 手配の流れを知る 5

Chapter　2: ランドオペレーターにガイド視点でのリクエスト 7

Chapter　3: 事前案内資料の確認と補足 8

Chapter　4: 事前のミーティング 9

4. ガイディングへ向けて 10

Chapter　5: 下見 10

Chapter　6: 英語でのガイディングの準備 12

Chapter　7: インタープリテーション 17

5. ガイディング当日 18

Chapter　8: リーダーシップ 18

Chapter　9: コミュニケーション 20

Chapter 10: 登山開始直前のブリーフィング 21

Chapter 11: 登山ガイディングの実行 22

Chapter 12: ガイド注力のバランス調整 23

Chapter 13: クライアントケアとコントロール 24

Chapter 14: 登山インストラクション＆コーチング 25

Chapter 15: 環境への配慮 27

Chapter 16: リスクマネジメント 28

Chapter 17: 危急時対応 31

Chapter 18: チェックイン インフォメーション 37

Natural History 英単語 39

1. Introduction

訪日外国人旅行者の増加に伴い、長野県の山を訪れる外国人の数が増えています。それに伴い外国人登山者の遭難も増えています。外国人登山者が安全に楽しく登山ができる環境整備と、外国人登山者ガイドを養成し、外国人登山の安全確保と普及促進を図るため、北陸信越運輸局と長野県が連携し、実証事業「外国人登山者ガイド養成による外国人登山促進事業」を実施いたしました。本事業において、2018 年夏に北・中央・南アルプスエリアにて総勢 148 名の外国人登山者へのアンケート（以下「2018 年外国人登山者アンケート」という）による実態把握調査が行われ、外国人が抱く日本の登山の魅力並びに困難な点の傾向が見えてきました。

▷**日本の登山の魅力；**
素晴らしい風景、登山道がよく整備されていること、上級者でなくても登れること
近くに温泉があること、縦走登山ができること、高山植物が豊富であることなど

▷**日本の登山を困難と感じる理由；**
言葉が通じないこと、案内標識が多言語化されていないこと、英語で事前入手できる登山情報が少ないこと、洋式トイレが少ないこと、英語登山ガイドに関する情報が少ないこと、実際にガイドが少ないことなど

このような結果を踏まえると、日本の山の魅力を伝えるだけではなく、登山への不安を取り去ることのできる良質な英語登山ガイディングサービスを、世界級山岳リゾート長野県の「おもてなし」として提供することが必要と考えられます。登山ガイドに求められる具体的な資質は、「2018 年外国人登山者アンケート」、2018 年夏季に北・中央・南アルプスで実施された「2018 年外国人モニター登山アンケート（北陸信越運輸局・長野県実施）」並びに「2017 年上高地アンケート（Mul Mo GON 調べ）」において示されています。

▷**登山ガイドに求められる資質；**
登山に関する知識と技能、山に関する歴史や文化などの知識、安全に関する知識と技能、山の動植物に関する知識、トラブル発生時の対応、英語を用いたインタープリテーション、行程管理、シンプルな英語による円滑なコミュニケーション、リーダーシップ、野外救急法を含む緊急時のリーダーシップなど

「2018 年外国人登山者アンケート」回答者の実に 4 分の 1 は、外国で登山の際にガイドを雇った経験があると回答しています。つまり訪日外国人の全体数から潜在的な登山者数を考えると、英語登山ガイディングサービスの需要が高まることが期待できます。

そこでこの冊子では、観光立国を実現しているカナディアンロッキーで必須とされる登山ガイド資格のトレーニングプログラムを参考として、本実証事業で実施したアンケート結果等を踏まえ、日本独自の考え方をプラスして、英語登山ガイドに必要な資質、考え方、知識、スキルなどを紹介していきます。（対象者は十分な英語コミュニケーション能力を有し、既に登山ガイドとして活動されている方を想定していますが多くの方にご活用いただけたら幸いです。）

2. 世界のガイド事情

世界の登山ガイド資格事情を比較すると、観光資源として山岳環境を持つ国々ではガイド資格制度が確立されていることが分かります。日本ではガイド資格は任意資格の範囲を超えない状況となっていますが、カナダ、アメリカ合衆国、南アメリカ大陸、ニュージーランドなどの山岳地域では、ガイド資格と商業ライセンスが必須資格となっています。これらの国に共通することは、美しい自然を Row Material として売るのではなく、厳しいガイド資格制度を整備し自然環境に付加価値を与え、受け入れ体勢の質を担保することで観光立国をなし遂げていることでしょう。

日本がインバウンドによる観光立国を目指し、また長野県も世界水準の山岳高原リゾートを目指しているので、海外の登山ガイド資格に学ぶべきことが多くあります。特に英語圏の国々の登山ガイド資格は英語圏のクライアントをガイドするための資格トレーニングである点も注目すべき点です。英語圏クライアントの文化やニーズに合ったガイディングのスタイルを構築するためには、これらの資格トレーニングの内容を研究することが重要となります。

またアンケート結果からも分かるように、潜在顧客は海外の登山ガイドの高い水準を実体験しているため、日本の英語登山ガイドにも世界水準のクオリティーが求められることになります。世界水準の登山ガイディングを考えると、山岳環境を用いて観光立国に成功しているカナダの登山ガイド資格が良いお手本となります。

ACMGの定義する登山ガイド（Hiking Guide）

カナダは世界自然遺産「カナディアン・ロッキー山脈自然公園群」を有し、その玄関口であるバンフには年間400 万人もの観光客が訪れます。しかしカナダ政府は素晴らしい自然環境だけに頼らず、国立公園内での登山ガイド業へ ACMG（Association of Canadian Mountain Guides（カナダ山岳ガイド協会））の登山ガイド資格と商業ライセンス取得を義務付け、高いガイディングクオリティーの維持に努めています。ACMG 登山ガイドの定義は次のとおりです。

- “A guide is a person, familiar with the environment and associated hazards, who is employed to direct others. As a professional leader, the guide is responsible for the safety and enjoyment of the clients.”

  ガイドとは自然環境とそれに伴う危険を知ったうえで、他者を導く者である。職業としての引率者として、クライアントの安全を管理し、また楽しませる責任を持つ。

- “A guide must regularly act as a guardian to ensure safety and comfort, as a facilitator to look after complex logistics and as a teacher to instruct skills and convey knowledge of the mountain environment.”

  ガイドは、安全と快適性を保証する守護者として、複雑な登山道具や手配関係の面倒をみるファシリテーターとして、また登山技術指導と山岳環境の知識を伝える先生の役割を担わなければいけない。

- “The guide is also an assertive and confident decision-maker able to communicate effectively to clients and control clients when necessary. There are constant decisions to be made in route selection, risk management, client care and emergency response.”

  ガイドは自信を持ち断定的にものを言う意思決定者であり、クライアントと効果的にコミュニケーションを取ることが可能であり、必要な時にはクライアントをコントローできる者である。ルート取り、リスク管理、クライアントケア、そして緊急時対応などの連続的な決断を迫られる。

クライアントが登山ガイドを雇う理由

ガイドを雇う理由は様々ですが、次の内容を包括的に意識し、個別の需要に応じた「かゆいところに手が届く」ガイディングが必要になります。

- “People hire guides for a variety of reasons including professionalism, safety, convenience, education, and companionship. A guide approaches work in a responsive manner that gives clients confidence that their trip will be safe and enjoyable. By hiring a guide, those people are able to pursue trips that may otherwise be impossible for them. There are many hazards that people do not recognize because they are unfamiliar with the mountains. Changeable weather, difficult conditions, and unknown terrain are major concerns for many clients.”

  人々は様々な理由でガイドを雇います。例えばプロとしての手腕、安全性、利便性、教育的要素、また交友を期待することなどです。それに対してガイドは、安全で楽しく山旅を過ごせるという確信をクライアントへ与えられるように、仕事に対して責任ある向き合い方をします。それによりクライアントは、ガイドを雇うことで、自分だけでは成し遂げえなかった山旅を追い求めることができます。一般の人々は山岳環境を正しく理解していないため、彼らが認識しえない危険は多く存在します。変わりやすい天候、野外の困難な条件、良く知らない登山道などは、多くの人にとって、大きな懸念となっています。

- “The guide offers clients convenience in addition to safety. The clients can arrive in the mountains with all the planning and preparation organized by the guide. They can relax in comfort, enjoy the trip and depend on the guide’s skilled leadership.”

  ガイドは安全性だけでなく利便性もクライアントへ提供します。それにより計画から準備までの全てが事前に完了した状態でクラアイントは山旅を開始でき、ガイドの熟達したリーダーシップにより快適にリラックスした状態で山旅を楽しめるのです。

- “Many clients value the educational component of the guided trips, including outdoor skills and interpretive programming.”

  ガイド付きの山旅に対して、クライアントは教育的視点を重要視しています。例えばアウトドアスキルのインストラクションやインタープリテーションを用いた自然史などの解説などです。

登山ガイドに必要なスキル

日本の登山ガイドに必要とされるスキルと大きな差はないものの、英語文化圏の人々の間では、登山は山頂を踏むことが第一の目的ではない場合が多く、しいて言えばプロセスに対価を払っている感覚があります。登山ガイドに対しては、特に安全性とエンターテイメントのスキルが重要視されています。

- “In less threatening terrain, the hiking guide needs to balance technical skills with soft skills and excellent communication. Hard skills such as group management, navigation, terrain assessment and risk management are a necessary basis for a career in guiding. These skills are invaluable during difficulties and emergencies. However, for less technical trips such as interpretive walks, the emphasis in on ‘the talk rather than the walk’. On these trips the hiking guide becomes an entertainer, scientist, historian and philosopher, able to communicate effectively to large groups.”

  そこまで危険性のない登山道では、登山ガイドは技術的なハードスキルと、優れたコミュニケーションスキル等の対人的なソフトスキルをバランスよく使い分けることが求められます。グループマネージメント、ナビゲーション、登山道の評価、リスク管理などのハードスキルは、ガイド業を営む上では必須の基礎スキルであり、

難事や緊急時には非常に重要なスキルとなります。しかし、例えばインタープリテーションがメインの散策ツアーのように、危険性の少ない登山においては、「歩くよりも話すこと」が重要視されるため、登山ガイドはエンターテナー、科学者、歴史学者、そして哲学者としての顔を持ち、グループに対して効果的にコミュニケーションを取ることのできるスキルが重要となります。

● “Guided hikes include a wide spectrum of trips from short interpretive walks to challenging multi-day backpacking and helicopter hiking trips. Interpretation of natural and human history is an element of most hiking trips, and the primary focus of many short interpretive walks. There is a significant demand for educational half and full-day trips, especially in the National Parks.”

ガイド付きの登山プログラムは、半日のインタープリテーションがメインの散策、数日に渡る困難なバックパッキング（縦走）やヘリハイキングなどを含むため、その内容には大きな幅が存在します。それらほとんどの登山プログラムにおいて、構成要素として自然史や人々の歴史のインタープリテーションが含まれており、また半日の散策では一番重要な要素となっています。特に国立公園では教育的要素をもつ、半日から１日のガイドツアーの需要が多く存在します。

このように、英語登山ガイドには、
・登山用品調達から添乗業務までの段取りのできるアウトフィッター
・ハードスキルを持つ登山技術のインストラクター
・リスク管理やクライアントケアのできるリーダー
・対人コミュニケーションを持つエンターテナー
・インタープリターとして自然史や文化を伝える教育者
という様々な役割が求められていることがわかります。

出典：Association of Canadian Mountain Guides

3. 段取り

Chapter 1: 手配の流れを知る

まずは、一般的なインバウンドツアー受注の流れを把握しましょう。登山を目的としたインバウンドを考えると、現状では以下の３つの形態が考えられます。英語登山ガイドを引き受ける際には、どのように自分が関わるのかを意識しましょう。

「海外の旅行会社を顧客とする営業」

グループ登山としてガイドする可能性が多いのが「海外の旅行会社を顧客とする営業」です。海外にツアー登山を企画する旅行会社（エージェント）があり、パッケージ商品として自社添乗員を同行させ、現地ガイド付きの商品として販売しています。現地手配を請け負う形で国内旅行会社がランドオペレーターとして関わり、末端の現地ガイドはこのランドオペレーターに雇われる形で関わります。この変形パターンとして、海外旅行会社が現地法人を一切通さずに全て行っているケースもありますが、そこには現地ガイドの入り込む隙間は無いように思えます。

「自社サイトで海外に向けて販売」

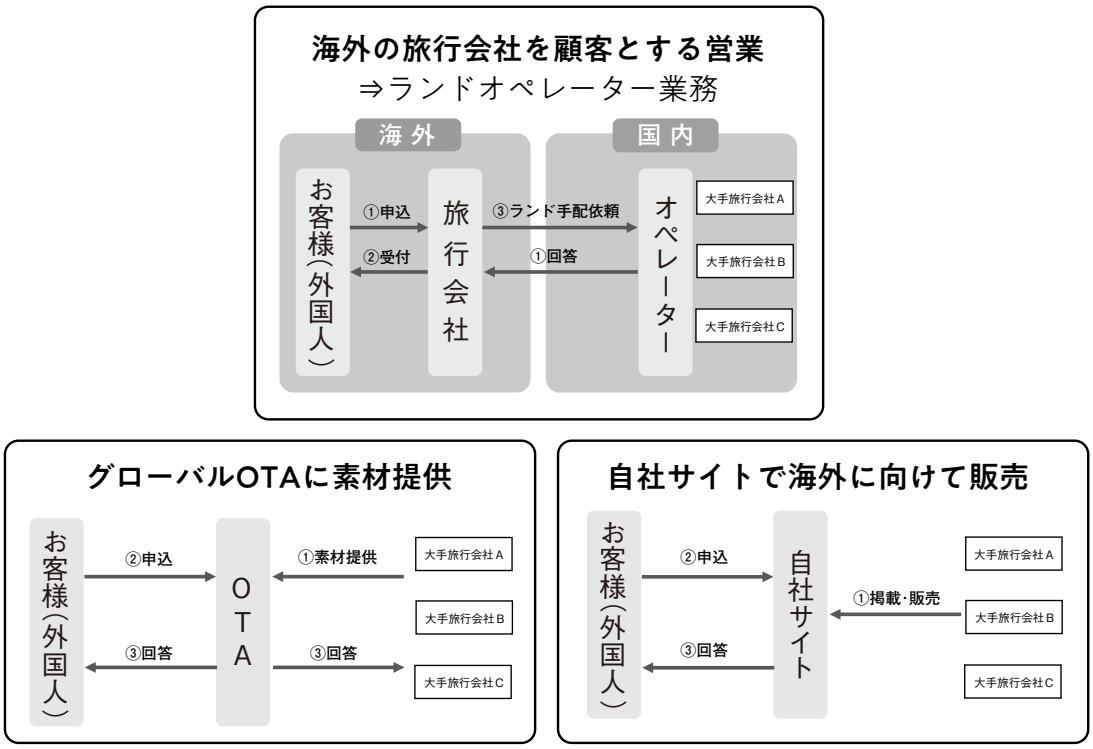
日本国内に在住する外国人ガイドに多く見られ、ガイド事務所のような規模もしくは個人事業主としてガイドをしている方が多くみられます。自社 Web サイトにて海外に向けて発信し、既存のコネクションを最大限に使い集客を行い、また自分が登山ガイドとなりツアーを実施しています。中規模以上のガイド会社などでは、日本人の登山ガイドと契約を交わし、登山ツアーを任せているケースも見られます。個人で活動する英語登山ガイドを目指す場合は、この形態を参考にすることになりますが、特別な集客ネットワークを既に持っていないかぎり、集客までの道のりは遥か遠くとなります。

「グローバル OTA に素材提供」

ここ数年、一般のインバウンドツアーで増えているのがこの形態です。これは外資系オンライン旅行会社（国籍は様々で、営業も国を跨いで数か国で行う）の作るツアーで、日本側では国内の旅行会社がランドオペレーターとしてツアーを請け、またガイドはそのランドオペレーターと契約をする形でツアーを実施しています。OTA は常にユニークな魅力のあるツアーを求めハイキングツアーの造成も着手し始めているために、今後多くの英語登山ガイドの需要増加が予想されます。しかしガイド側としては、造成から段取りまでコントロールが最も届きにくい形態となる可能性があり、難しいツアーとなる可能性があります。

上記の形態を分析すると、いくつかの問題が浮き彫りとなってきます。日本人を対象とする既存の国内登山ツアーや個人登山ガイド業では、クライアントとガイドの距離は近いため、必要な情報（既往症と現病歴、登山技術と体力、登山装備、特別食のリクエストの有無、行程の確認など）は自由に入手が可能でした。しかし「自社サイトで海外に向けて販売」以外の流れでは、クライアントとガイドの接点は薄くなり、登山ツアー実施において多くの問題が生じています。

一般的なインバウンド業務



Chapter 2: ランドオペレーターにガイド視点でのリクエスト

クライアントとガイドの間に入り、日本国内の段取りを行う旅行会社をランドオペレーターと呼びます。手配の流れを踏まえて、ガイドはランドオペレーターを介して「ガイド⇔クライアント」の間で必要な情報を上手に行き来させる方法を模索しなければいけません。具体的な方法はケースバイケースになってしまうので詳細をここに記載することはできませんが、肝心なのは入手したいクライアント情報、またクライアントに伝えてほしい情報をランドオペレーターにしっかりとリクエストすることです。以下に最低限必要とされる情報を紹介します。

ツアー行程表 (Itinerary)

ガイドとしては、登山の行程だけでなくツアー全体の行程を知らなければ何も準備が始まりません。現状としては、登山ガイドに渡される情報はガイディングする日程だけの行程表にとどまり、前後の動きの共有がされていない状況が多く見かけられます。ツアー全体の行程表を必ずリクエストしましょう。

顧客に関する情報（General Information）

氏名 (name)、性別 (sex)、年齢 (age)、パスポートに表記されている帰属する国 (nationality)、生活をしている国 (country of residence)、海外旅行保険が対象アクティビティーである登山をカバーしているか (insurance and range of covered activity)、緊急時の国内での連絡先 (contact person(s) for emergency during your stay in Japan)、自国の連絡先 (contact person(s) for emergency in your home country)、登山歴 (experiences in hiking)、どれくらいアクティブに運動ができるか (fitness level)、体重 (body weight)。これらの情報はしつこい位にリクエストをしないと入手できないケースが多くあります。場合によっては最後まで入手できないことも少なくありませんが、トラブル発生時などに必須の情報となりますので、強くリクエストをしてください。

医療情報（Medical Information）

既往症（medical history)、病気やケガを含む現在の体の状態（current illness and other conditions)、アレルギーの有無（allergies)、ある場合はどれくらい悪く、普段はどのように対応しているのか（if so, how servere and how do you treat it usually?)、薬の有無（medications)。薬がある場合には当日必ず持参すること、それが緊急時に用いる薬の場合は服用の際にガイドが介助できるように、保管場所と使用方法を、ミート時にガイドに示す必要がある旨を伝えること（In the case of emergency the guide may need to assist you to take medications. When you meet your guide, please teach your guide how to do so)。これらの情報なしには安全管理は難しくなります。報告された情報をもとに、場合によってはテールガイドや三人目のガイドを必要とするかもしれません。対応不可能なコンディションのクライアントであれば事前に断ることも必要となります。

なお、山岳環境での危急時対応には野外救急法資格等の取得だけでなく、継続したトレーニングが必須であり、それを前提として英語でクラアイントとの対応が求められます。クライアントが英語登山ガイドに期待するレベルは WFR (野外災害救急法プロフェッショナル 80 時間レベル) となりますが、その知識と技術も、事前の医療情報なしには発揮しきることは難しくなります。

山小屋との確認事項

クライアントが外国人であることを踏まえて、山小屋管理会社からの希望（特定の行為をしてほしくない、など）をヒアリングすることをランドオペレーターに促してください。また、小屋で提供される食事内容の確認も重要なので、もし該当する場合は食物アレルギー、ベジタリアン食、宗教的タブー食への対応の可否の確認もランドオペレーターに促してください。

ベジタリアンの程度チェック

厳密には下記の分類がありますが、強いこだわりを持ち実施している人だけでなく、可能な時だけ行い、旅行中はあまり気にしない flexitarian も存在します。しかし普段食べ慣れていない肉類を食べてしまうと胃腸の調子が悪くなることもあるので、体力勝負である登山では食べ慣れた食事を提供することもリスクマネジメントとして考慮しましょう。

- vegan：肉、魚、卵、乳製品、はちみつなどは NG ／植物性の食品は OK
- lacto-vegetarian：肉、魚、卵は NG ／乳製品は OK
- ovo-vegetarian：肉、魚、牛乳は NG ／卵は OK
- lacto-ovo-vegetarian：肉、魚は NG ／卵、乳製品は OK
- pescetarian：肉は NG ／魚、卵、乳製品は OK
- fruitarian：ヴィーガンよりもより厳格な菜食主義。果実、種子、ナッツは OK
- oriental vegetarian：五葷（ごくん：ネギ・にんにく・にら・らっきょう・浅葱）を食べないヴィーガン。乳製品が OK な場合もある

出典：https://greenculture.co.jp/vegetarian-types/

食事のタブーのチェック

例えばイスラム法では料理方法や使用する器具が教義に則っている必要があります。またアルコール、血液、宗教上の適切な処理が施されていない肉はコーランで食べることを禁止されています。また Ramadan（断食期間）には、日中は水を含めて一切の食事をとらず日没とともにたくさんの食事をとります。登山日がラマダンと重なる場合や、小屋での食事がこれらのタブーに該当する場合は、必要な水分やカロリーが不足し、最悪の場合は遭難につながる可能性もあります。

その他、小屋のトイレ、小屋で購入できるもの、小屋での充電の可否、小屋及びルート上の携帯電波の入り具合などを事前にクライアントへ伝えるために山小屋に問い合わせをして、ランドオペレーターと情報を共有しましょう。

Chapter 3: 事前案内資料の確認と補足

海外旅行会社（エージェント）からクライアントへ、登山アイテナリー、登山に内包されるリスクの説明を含む諸注意事項、また持ち物リストなどが事前に送られるはずです。その資料を取り寄せて、必要な項目が全て網羅されているか確認をしてください。資料の中には日本の登山マナー、山小屋利用時のマナー、登山装備リスト、日本の山の気象条件、簡易的な登山行程と地図なども含まれるべきです。これらが含まれていない場合には、海外旅行会社に作成を促し、確実にクライアントに送られるようにしましょう。

ルート情報

海外旅行会社（エージェント）もしくはランドオペレーター（国内旅行会社）が作成した、添乗員用の登山アイテナリーがあるはずです。その登山ルートや時間行程などを取り寄せて見直しましょう。ツアー企画者が実際に現地を歩かずにネット情報だけで作成している場合があるので、ガイド目線でダブルチェックをし、必要であれば補足を、場合によっては修正のリクエストを出しましょう。

装備リスト

実際の登山行程に適した内容かどうか確認をしましょう。雪解けの遅い年にはアイゼンなどを追加する必要があ

るかもしれませんが、そこまでの情報は海外エージェントもランドオペレーターも熟知していないのが現状です。ガイド目線でサポートをしてください。また、Essential / Nice to have などのように必要性のレベルを示してあげると親切です。一覧表を渡すだけだと、クライアントの自己判断で必須アイテムを持ってこないケースが発生してしまうかもしれません。

Essential Equipment for Client（夏季、山小屋 1 泊を想定した例）

・Appropriate clothes for hiking
・Backpack (30 L to 40 L) & waterproof pack cover
・Water-proof hiking boots
・Hiking pole(s)with tip protector(s)
・Water bottle (1 L or more)
・Trail snacks for 3 hiking-days
・Head torch with extra batteries
・Rain jacket & pants
・A set of thermal layers such as a light down jacket with light fleece packed in a big zip-lock
・Woolly hat and gloves
・Sun hat, sunscreen, sunglasses
・Towel, wet wipes, tooth-brush & paste
・A set of underwear, packed in a zip-lock
・Earplugs
・Personal first aid kit, and medications if applicable

Nice-to-Have list（あると便利な物）

・Camera
・Small book like a novel in case you stay at a hut for a day
・Sleeping bag liner,　etc.

資料提供：W-ASOBI

Chapter 4: 事前のミーティング

もし可能であれば、前日にホテルのロビーなどでクライアントと打ち合わせを行いましょう。当日、登り始める前にも最終的な確認としてブリーフィングを行いますが、その前段階として自己紹介も兼ねて Face to Face での入念なミーティングができると理想的です。顔を合わせてのミーティングが不可能な場合は、最低でも電話でのミーティングは必要です。ミーティングでは情報共有を確実に行います。事前案内資料を中心にした確認、クライントがどのような不安を抱えているか、また事前に聴取しきれなかった健康上の問題などを聞き出すことや登山リスク説明なども含まれます。ミーティングは双方の最終的な確認をするチャンスだと思ってください。このプロセスをないがしろにしてしまうと、例えば、クライアントの自己判断で必要装備を持ってこないことや、重要な持病に必要な薬を持ってこないままにツアーがスタートしてしまう事態も起こりかねません。しかしこのタイミングで装備不備が発覚した場合には、登山用品店へ案内し購入してもらうことなどで対応が可能です。

英語地図の入手

事前のミーティングでルート説明に使う地図は、可能であれば英語の物を用意しましょう。もし英語地図が存在しない山であれば、日本語の地図のコピーと英語表記の自作の概念図などを用意しましょう。自治体によっては英

語の地図を作成しているので、そのような地図が存在する場合は是非とも活用してください。

例えば、安曇野市はパノラマ銀座の英語地図「Hiking Guide & Map 2018; Northern Japan Alps Panorama Ginza Azumino City」を作成しています。この地図にはパノラマ銀座の詳細な英語地図と登山ルート情報だけでなく、天候、服装、小屋、登山ルールなどの登山に必要な諸情報も載っているので、ミーティング前に事前配布資料として予め送付しておけば事前学習をしてもらうこともできます。非常に良くできている地図なので、たとえ別の山域をガイドした時であっても、新品をお土産として渡せば次回のリピートにつながるかもしれません。（http://www.azumino-e-tabi.net/hike/）

Trail Head で現地ミートの場合

現地でクライアントとミートするツアーでは、前日にツアーリーダー（海外エージェントサイドから派遣）もしくは日本人添乗員（ランドオペレーターサイドから同行を依頼されている人物）を介して、上記の確認をしてください。ただし彼らの登山知識はゼロであると仮定し、彼らが客観的にチェックできるように、装備チェック表による確認を促してください。個人ガイドとしてガイドする場合は、通常は現地集合現地解散となると思いますが、その場合はクライアント一人一人に対して、E メールで案内の上、ホテルの部屋へ直接電話で確認をするような配慮が必要となります。

4. ガイディングへ向けて

Chapter 5: 下見

危険個所や休憩ポイントの確認

たとえガイド経験のあるルートであっても外国人クライアントをガイドする視点で見直しをしましょう。トイレは洋式か、給水ポイントはいくつあるか、売店では何が購入できるかなど、快適さに関する視点は重要です。特に外国人登山者の間では、景観や雰囲気を楽しみながらのんびりと登るスタイルが主流なので、長く休憩できる場所なども重要な確認ポイントとなります。それらの情報と危険個所などを地図とルートカードに落とし込んでいきましょう。例えば、日本特有の急登は日本人にとっては慣れた斜度かもしれませんが、クライアントにとっては恐怖を感じる斜度かもしれません。危険個所の概要は出発前に共有し、また危険個所の直前で注意喚起を行い、場合によっては通過方法をインストラクションする必要があります。下見の時点でどのように英語で説明をするか考えておきましょう。

インタープリテーションの題材の発掘

訪日外国人は、エンターテインメント性を持ち教育的情報を含んだインタープリテーションを好み、特に日本特有の題材を強く好みます。ルート上にどのようなネタがあるのか改めて見直し、地図に落とし込んでおくと便利です。これをもとに 3 分以内のインタープリテーションを事前準備し、そのポイントを、地図とルートカードに落とし込みましょう。

ルートカードの作成

通常、ルートカードは冬場のホワイトアウト時などへの対策として用いられています。全行程を大まかなポイント、例えば地形的特徴や進行方向が変わるポイントなどの分かり易い場所でルートを分割し、方角、標高差、移動距離などを落とし込んでいくものです。ここでは下見で得た情報（例えば休憩、トイレ、写真、危険個所、インタープリテーションなど）をポイントとして落とし込み、インバウンド登山用にアレンジして使います。このカードを準備しておくことで、所要時間のアナウンスや危険個所の注意喚起などもスムーズに、そしてタイムリーに行えるようになります。

Date;

Weather Forecast;

	Name	Height	Elevation Difference	Distance	Bearing	Condition	Hazards	Inter-pretation	Estimated Time	Time Record	Weather Observatoin
Start			—	—	—	—	—	—	—	—	—
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											

Time Planning Guidelines		
Trail Condition	Speed	Time per 1km
Good Trail	5km/h	12 minutes
	4km/h	15 minutes
	2km/h	30 minutes
Off Trail	3km/h	20 minutes
	1km/h	60 minutes
	Less than 1km/h	more than 60 minutes
Additional Time	10 minutes/h for break	
Vertical Elevation Gain	1h/300m	
	20minutes/100m	
Descent	10 minutes/300m	

※ペースタイムは一例です。登山ルートや登山者の年齢層によりペースは変わります。

Temperature Conversion	
℃	℉
-5	23
-3	26
-1	30
0	32
5	41
10	50
15	59
20	68
25	77
30	86
32	90
33	91.4
34	93.2
35	95
37	96.8
36	98.6
38	100.4
39	102
40	104
45	113
40	104
45	113

Length Conversion	
Meter	Feet
250	820
500	1,640
1,000	3,281
1,250	4,101
1,500	4,921
1,750	5,741
2,000	6,562
2,250	7,382
2,500	8,020
2,750	9,022
3,000	9,843
3,250	10,660
3,500	11,480
3,750	12,300
3,776	12,390
4,000	13,120

Chapter 6: 英語でのガイディングの準備

対象者の理解

事前に取り寄せたクライアント情報に基づいて、その国の文化、風習、マナー、食事、気候や気象などをリサーチし、またクライアント個人の特徴、ジェンダー、居住地域や家族構成なども整理しておきましょう。それらを踏まえリスペクトを持ち、接し方、アナウンスやインストラクションの仕方、またインタープリテーションの題材などを調整しましょう。

英単語帳の作成

英語文化圏では Natural History という学問の分野が存在します。日本語では博物学と呼ばれるもので、自然に存在するものについて研究する学問です。広義には自然科学のすべてを指すので、日本の学校の教科で例えると「文化史＋生物学＋地学＋地理」といったところでしょうか。特に国立公園などを訪れる訪日外国人の間では、日本独特の文化、自然や地理的特徴を含む Natural History of Japanese Mountains に強い興味関心を持つ傾向があるため、英語登山ガイドにも Natural History という視点で日本の山々の魅力を再発見し、整理する努力が必要です。しかし、国内にはそのようなカテゴリーで作られた英語の参考書は見当たりません。そこで、参考として巻末に付録として英単語の一部を紹介させて頂きました。必要に応じて各自で単語帳や例文等の作成が必要となります。

例えば植物では、一般名称と学名がありますが、日本固有の植物であれば英語での一般名称が存在しないものが多くあります。そのような場合に学名で紹介をしてもクライアントは何のことかさっぱりわからないので、インタープリテーションを活用するなど各自の発信の仕方に工夫が求められます。英語での一般名称が分からない場合には日本語での一般名称を紹介し、英語で一般的に知られている植物だと何に近いのかを説明するのも良いかもしれません。例えば大きなカテゴリーで表現したければ種（species）で、また小さなカテゴリーならば科（family）で、同じカテゴリーの植物を比較して説明をしてみましょう。

また、ものによって英語名は存在するものの、それが必ずしも正しい表現だとは限らないことも注意が必要です。例えばカタクリ。カタクリはユリ科（Lily）で、たしかに英語での一般名称が存在はしますが、カタクリ自体が英語圏の国には存在しないため（北東アジアのみ分布）、学術的に正しくない“dog's tooth violet”と表現されており、補足説明なしにはスミレだと誤認されるかもしれません。“It is called ‘a dog's tooth violet’ in English, but it actually belongs to Family Liliaceae,… which is a Lily!”などのように紹介をすると良いかもしれません。上記のような面倒な言い回しを避けたければ、和名で“Katakuri”と紹介し“… and close relative to Katakuri is the Glacier Lily seen in the Rocky Mountains”と表現しても良いと思います。ちなみに生物の分類学においては、大きなくくりでは以下の階級（category）がありますので、説明の際の参考にしてください。

種：species（単数形も複数形も同じ）
属：genus（複数形は genera）
科：family
目：order

花の名前に関して言えば、海外の国立公園等では日本語と英語の両方で花の名前を紹介しているガイドブック（例：「カナディアンロッキーの高山植物」（クラックス パブリッシング）、「Thumbs Up Yellowstone」（北斗書店）が存在し、日本からもネットで簡単に購入が可能です。写真を見ながら花の英語名を探すのにとても使い勝手が良いと思います。

必要とされる英語のレベル

日常的なコミュニケーションは、専門用語や文法にこだわらなければ、知っている単語と文法でシンプルな表現が可能です。実際に中学英語で約 9 割の日常会話は成り立ちます。クライアントには Non-native English speaker も多くいるので、特に注意喚起や緊急時のリーダーシップでは明確かつシンプルで適切な表現が必須となります。しかし、文化、動植物、造山運動や気象などの Natural History を話す際には、幅広い専門用語とアカデミックな表現方法も必要になるので、英語レベルとしての目安は英語圏の大学卒業レベルの英語力が理想となります。英語圏の大学の中には、授業をネット動画配信している大学もあるので、各自で検索をしてみても良いでしょう。

例えば、カナダのアルバータ州にある University of Alberta という大学では、Natural History の授業動画を無料でネット配信し、総合的に山岳文化を英語で学ぶことができます。登録すればだれでも無料で動画の聴講が可能で、言葉は全て subtitle（字幕）化されているので、聞き取れなかった単語も確認できます。またテストを受け合格すれば北米大学で認められる単位を取得することも可能です（有料）。各レッスンの終わりに、登山でのワンポイントアドバイスのコーナー（Tech Tip）があり、英語登山ガイドとしてクライアントにアドバイス等をする際の表現の参考にもなるので、是非とも役立ててください。実際に動画を見ないにしても、下記のコースシラバスの項目を考察することで、英語登山ガイドに求められる知識範囲の参考にできるでしょう。

大学名：University of Alberta
コース名：Mountain 101
サイト　https://www.coursera.org/learn/mountains-101
コースシラバス：

Lesson 1: Why Mountains Matter
- 1 Course Introduction
- 2 Why do Mountains Matter?
- 3 Defining a Mountain
- Tech Tip 01: Your Feet are Your Vehicle

Lesson 2: Origins
- 1 Mountains & Deep Time
- 2 Current Theories of Mountain Building
- 3 Types of Mountains
- 4 Conclusion
- Tech Tip 02: Dress for Success

Lesson 3: Climate
- 1 Global Climate Drivers
- 2 Local Climate Drivers
- 3 Alpine Environments
- Tech Tip 03: What goes in your pack?

Lesson 4: Bodies at Altitude
- 1 Atmospheric Pressure & Oxygen Partial Pressure
- 2 Acclimatization
- 3 Adaptation of High-Altitude Peoples
- Tech Tip 04: Stay Found - Preparation

Lesson 5: Water Towers
- 1 Water Towers
- 2 Sources of Water in Mountains
- 3 Runoff
- 4 When Water Towers Malfunction
- Tech Tip 05: Stay Found – In the Field

Lesson 6: Glaciers
- 1 What are Glaciers?
- 2 Types of Glaciers
- 3 Glacier Dynamics
- 4 Glacier Features & Land Modifications
- Tech Tip 06: Stay Safe (Fall or Fall In)

Lesson 7: Imagination
- 1 Attitudes Towards Mountains
- 2 Western Romantic Enthusiasm
- Tech Tip 07: Stay Safe - Winter Challenges

Lesson 8: Hazards
- 1 Avalanches
- 2 Landslides
- 3 Volcanoes
- Tech Tip 08: Stay Safe - Avalanche Safety (Know Before You Go)

Lesson 9: Mountain Biodiversity and Adaptations of Plants
- 1 Biodiversity in Mountains
- 2 Hotspots of Biodiversity
- 3 Adaptations of Conifer Trees
- 4 Adaptations of Alpine Plants
- 5 Reproduction of Alpine Plants
- Tech Tip 09: Go Farther - Camping

Lesson 10: Animal Adaptations
- 1 Adaptations of Animals to Mountain Environments
- 2 Examples of Mountain Adapted Species
- 3 Freshwater Fish in Mountain Lakes
- Tech Tip 10: Go Farther - Cooking

Lesson 11: Use and Preservation
- 1 Use & Preservation
- 2 Preservation
- 3 Integrating Use & Preservation
- Tech Tip 11: Go Softly - Mountain Ethics

Lesson 12: Future Mountains
- 1 Climate Change
- 2 Biodiversity
- 3 Into the Future

登山の専門用語に関しては、ネットを通じて国内からも購入が可能な海外の登山技術専門書（例「Mountaineering, the freedom of the hills」（THE MOUNTAINEERS BOOKS））を参考にすることができます。これらを読むと日本で一般的に使われている登山にまつわる外国語の多くは英語でなないことに気が付くことでしょう。例えばヒュッテ（Hutte）、ザイル（Seil）、ピッケル（Pickel）、コッヘル（Kocher）、リュックサック（Rucksack）、シュラフ（Schlafsack）などは英語ではなくドイツ語由来のものです。会話のネタにそれらを使うなら良いのですが、それを英語だと勘違してしまうとクライアントとの間にミスコミュニケーションが生じるでしょう。英語ではそれぞれ、Hut、Rope、Mountaineering Axe、Cooker、Backpack、Sleeping bag となります。

ドイツ語由来の名称以外に、本来は英語だったものから日本語発音化した単語も存在しています。例えばブーリン結びは、Bowline (knot) が日本語発音化してカタカナで表記された結果のものです。それ以外にも、一般的と思われる英語を使ったつもりがネイティブの感覚からすると違う意味に捉えられ、ミスコミュニケーションが生じてしまうケースもあり得るでしょう。これらの間違いは、和英辞書だけを用いる時に生じるエラーが原因と考えられます。和英辞典で検索した単語は英英辞典で検索し直し、それが本来表現したかった意味合いと一致しているか再確認が必要です。

例えば「登山」は以下の英語で表現が可能です；

◇ Trek：go on a long arduous journey, typically on foot
◇ Hike: walk for a long distance, especially across country
◇ Scramble: make one's way quickly or awkwardly up a steep gradient or over rough ground by using one's hands as well as one's feet.
◇ Climbing：the sport or activity of climbing mountains or cliffs

上高地から槍ヶ岳山荘までの道のりは Hike、穂先までは Scrambling、梯子の通過は Aid Climbing に分類され、その先の室堂までの大縦走は Trek と分類されるでしょう。このように、一般的に安易に使われている Climbing を用いてしまうと、クライアントは岩登りを想像してしまい、あなたの提案する登山プランに懸念を抱いてしまうかもしれません。

上記のような登山専門用語に関する説明だけではなく、英語登山ガイドには一般的な日本文化や山岳文化を説明できる知識と英語での表現力が求められます。霊山、山岳信仰と山伏、また播隆上人に代表される開山や講と言う考え方、明治期にもたらされた西洋のアルピニズムや日本アルプスの父と言われるウォルター・ウェストンなどについても、長野県の山岳文化を語る上では必要となる知識です。しかし単に歴史年表を読み上げるようでは、退屈な情報の提供になってしまうので、インタープリテーションを用いて英語で表現してみましょう。幸い通訳案内士試験向けの参考書が書店に立ち並ぶ時代になったので、歴史文化の英語表現に関しては、自分にあった参考書を探し各自で勉強することをお勧めします。しかし英語登山ガイドにとっては筆記試験対策の参考書は必要ではない為、参考書の選び方にも工夫が必要です。音声 CD が付属されたものを入手し、音として捉えながら文字を追う勉強方法であれば実用的な表現方法などが学びやすいと思います。（例「Finding Japan」Robert Reed 著）

また、登山ガイドにはリーダーシップとリスクマネジメントも必要ですが、命にかかわる部分なのでミスコミュニケーションは許されません。Take-charge できるかどうかは、ただ単に英単語を暗記しているだけの素人と、それを理解し使いこなせるプロとを二分するものであり、ガイドとしての真価が問われます。それには日本語でのガイドとしての熟成と英語での円滑なコミュニケーションが欠かせず、これから英語登山ガイドを目指す人には、時間をかけたトレーニングが必要となるでしょう。

登山ガイドであると同時に観光ツアーガイドでもあるという意識を

英語登山ガイドを行うということは、ベースとして英語観光ツアーガイドに関してのスキルや知識も必要となります。既に通訳案内士として活動されている方も、これから始める方も、是非とも be a better guide のサイトを活用してください。これは Kelsey Tonner さんが行っている有料のツアーガイドトレーニングサービスですが、Tour Leader Training Videos のページで無料公開されている動画では、そのノウハウを余すことなく紹介しています。

参考：https://www.beabetterguide.com/tour-leader-training-videos/

Chapter 7: インタープリテーション

これまでに紹介してきたように、世界水準のインタープリテーション技術を身に着けることが英語登山ガイドには必須です。インタープリテーションを直訳すると「通訳」という意味ですが、「インタープリテーション入門　自然解説技術ハンドブック」では、“インタープリテーションとは自然体験を通じて、物事や事象の背後にある意味や、相互の関係あるいは自然の大原則を解き明かし、人々に興味を起こさせるもの”と定義されています。日本ではまだ聞きなれない言葉ですが、ACMG でもガイディングにおける重要な要素として扱われています。

● “Interpretation is any communication process which aims to reveal meanings and relationships through first-hand experience with an object, artifact, landscape or site. The nugget in this definition is the part about meanings and relationships. Interpretation is revealing. It opens people to new worlds. An alternate title for interpreter could be ‘meaning maker’.”

　インタープリテーションとは、物、人工遺物、景色や場所を介し、直接体験によって意味と関係性を解き明かすことを狙いとした、コミュニケーションの過程を意味します。この定義におけるポイントは、意味と関係性です。インタープリテーションとは隠されていることを明らかにすること。それにより、人々は新たな世界へと誘われます。インタープリテーションは、価値の創造とも呼べるでしょう。

● “Another definition is an informational and inspirational process designed to enhance understanding, appreciation and protection of cultural and natural heritage. The nugget in this definition is the part about it being informational and inspirational. Interpretation is not just information. It inspires the client by being compelling and it should provoke a response (emotional or intellectual) from the group.”

　その他の定義では、文化遺産や自然遺産の真価を認識し、また理解を向上するためにデザインされた、情報提供並びに感化させるプロセスと定義されています。この定義におけるポイントは、情報提供と感化です。インタープリテーションは単なる情報提供だけではありません。インタープリテーションはクライアントを巻き込み、鼓舞し、またそれはグループを刺激し、感情的または知性的な反応を引き起こすのです。

● “And here is one final definition; A good interpretation is like a bikini or a pair of briefs. It should: 1）provoke interest; 2）excite the imagination; and 3）reveal the most interesting features. The nugget here is that interpretation is fun!”

　そしてこれが最後の定義です。良いインタープリテーションはビキニやブリーフのようなもの。それは、1）興味を刺激するものであり、2）想像力を掻き立てるものであり、3）最も興味深い特徴を明らかにするもの。この定義におけるポイントは楽しむことです。

● “Remember that interpretation is different from formal education! …, not a classroom and people are on vacation…They are there to have fun, to enrich their vacation experience, and to learn about something that they have an interest in.”

　忘れてはいけないことは、インタープリテーションは学校教育とは異なることです。学校の教室にいるのではなく、彼らはバケーション中なのです。彼らは楽しむために、休暇を充実した体験にするために、そして彼らが興味を持っていることについて学ぶためにここに来ているのです。

インタープリテーションは、自然界に隠された意味と関係性を直接体験によって解き明かし、自然や文化遺産の真価や理解を向上させ、単なる情報提供にとどまらず、クライアントを感化し、感情的で知性的なグループダイナミズムを生み出し、そして何よりクライアントの興味や想像力を刺激します。このように ACMG ガイドや英語文化圏のガイドたちは、インタープリテーションを通じてガイディングに付加価値を与え特別な山旅を演出しているため、訪日外国人であるクライアントは日本の英語登山ガイドに対しても同じレベルの、しかも日本特有の感動を期待しています。

Steps Towards Interpretation　インタープリテーション作成への 4 つのステップ

1. Observation（観察）: notice　気づき
2. Identification（同定）: name　名前
3. Information（情報）: fact　事実
4. Interpretation（インタープリテーション）: weave together　織り上げる

ACMG の提案する上記のステップを用いて、英語登山ガイドがどのようにインタープリテーションを作り上げていくか、シミュレーションしてみましょう。

まずは日本の山岳を案内するにあたり、インタープリテーションのネタ探しをしましょう。体験を伴った感動を与えるインタープリテーションのネタは、ガイドブックやインターネットでは見つからないかもしれません。実際に現地へ足を運び、観察を通じてネタを発掘することが理想です。英語文化圏のクライアントは natural history を好むので、Natural History of Japanese Mountains を意識したネタが良いでしょう。対象物が定まったら、情報収集を行います。この段階では本やインターネットが活躍するかもしれません。地元の人に聞くことでしか得られない情報もあるでしょう。最後はそれらを織り上げるプロセスです。織り上げる際の骨子としては「Introduction / Body / Conclusion」の三段構えが英語文化圏での基本となりますが、日本式の作文に慣れている方は、「起・承・転・結」でまとめるのも良いと思います。

内容は、クライアントにとって適切なテーマを持った内容であるべきで、また直接体験を含むことも重要です。インタープリテーションの定義を意識して、まずは日本語で文章化していきましょう。次にそれらを英語に翻訳していきます。翻訳が完了したら文章の見直し並びにリハーサルを行い、実際にかかる時間を計ってみましょう。人の集中力は 3 分しか持たないと言われていることもあり、なるべく 3 分以内に収めるようにしましょう。

このような流れで作成したインタープリテーションを、ルートカード上に落とし込み、また地図にもマーキングを行います。これらは Place specific なインタープリテーションになります。これはその場に行かない限り表現できないネタです。手持ちのネタがこれだけであれば、その場所に行けない場合には話すネタがなくなってしまいます。そのような事態に備えて、どんな場所でもどんなタイミングでも使える Widely usable なインタープリテーションも自分の引き出しに備えておきましょう。これらは別の山域や観光ガイドの際にも活用できる汎用性の高いものとなり、あなたのガイディングに深みと流動性をもたらしてくれるでしょう。

5. ガイディング当日

Chapter 8: リーダーシップ

登山ガイドに限らず、グループを引率する立場であれば何かしらのリーダーシップが求められることは周知のこ

とと思います。しかしリーダーシップは日本人の一番苦手とする分野でもあります。ここでは英語圏のクライアントを山へガイドする際に求められる「リーダーのクオリティー」、また状況によって使い分けが必要な「リーダーシップの種類」を定義したいと思います。

リーダーのクオリティー

以下に示される各要素は、英語文化圏でリーダーシップを取る際に必要とされる素質です。ガイドにはこれらを持つことがクライアントから期待されており、またリーダーシップを取る際には実際に必要となります。理想的にはこれら全てを持つことが良いとされますが、そのほとんどは机上の知識で補えるものではなく、獲得するには時間、経験、トレーニングが不可欠となります。国内でも北米式のリーダーシップのトレーニングを学べるセミナーなども開催されているので、必要な方は参加を検討してください。

- Desire to lead（リーダーとしての決意）
- Patience（忍耐）
- Caring（他者を気にかけることのできる能力）; looking after（面倒を見る）
- Organization（段取り）
- Competence（能力）
- Awareness（自覚／周囲への配慮）
- Management（管理能力）
- Communication（コミュニケーション）; listening（傾聴）/ counseling（意見を聞く）
- Trust（信頼）
- Hard working（勤勉）
- Sense of humor（ユーモアのセンス）
- Integrity（誠実さ）
- Confidence（自信）
- Decisiveness（潔さ）
- Efficiency（効率のよさ）
- Adaptiveness（順応性）
- Environmental Awareness（環境への配慮）
- Responsibility（責任）
- Not grumpy（落ち着いた性格）
- Being strategic（戦略的であること）

リーダーシップの種類

効果的なリーダーシップには、状況に応じて適宜リーダーシップの種類を微調整することが必要となります。下記の表から分かるように英語文化圏ではリーダーシップには Authoritative（厳然たる）と Democratic（民主的な）の 2 種類があり、それらを構成する 5 つの要素の強弱によってスペクトルムとして定義されます。

◇ Tell（命令）	Authoritative（厳然たる）Leadership
◇ Sell（賛同を得る）	↑
◇ Consult（意見を聞く）	変動
◇ Share（責任の分担）	↓
◇ Delegation（委任する）	Democratic（民主的な）Leadership

博物館のガイド、バスガイド、観光通訳ガイド、登山ガイドを比較した時、必要とされるリーダーシップの種類について、何か違いがあるか考えてみましょう。日本人の感覚からすると、どのシチュエーションにおいても民主的な方が良いと思う傾向がありますが、時と場合によっては民主的なリーダーシップは危険を招くこともあり得ます。例えば登山ガイドが山の中腹で「皆さん、それでは山頂で会いましょう！」とグループを分散させてしまった場合はどうでしょうか？

確かにリーダーシップは発揮してはいるが、間違ったリーダーシップを発揮している状況だと認識してください。「山は自己責任」とよく言いますが、このシチュエーションでは自己判断をクライアントに押し付けている状況、つまり各クライアントにリーダーシップの Delegation（委任）を行っていることになります。Delegation を行うには、委任される側の知識や技術がガイドと同じレベルであることが条件ですが、クライアントはガイドレベルの知識や技術がないからガイドを雇っているので、ここでの Delegation は成り立ちません。これは実際に富士山でよく見かける光景ですが、法的に「引率者」には人々を安全へ向けて導く義務があるので、「山頂で会いましょう！」と言うガイディングは、引率責任を放棄していることになります。登山のようにガイドの判断が求められるシチュエーションでは、Authoritative になることをためらわないようにしましょう。

出典：Mountain Skills Semester 2006

Chapter 9: コミュニケーション

英語圏のクライアントをガイドする上で最も重要視されるのがコミュニケーションです。コミュニケーションは事前の段取り、対象者理解、インタープリテーション、クライアントケア、登山インストラクション、コーチング、リーダーシップ、リスクマネジメント、危急時対応など、英語登山ガイドの全ての場面で必須となるスキルであり、円滑なコミュニケーションなしにはガイディングは成り立ちません。コミュニケーションのポイントは、日常的な何気ない会話からクライアントの趣向・性格・ニーズや悩み事などを拾っていくことであり、この積み重ねがクライアントからガイドへの信頼の基盤となります。それでは、クライアントとミート後に行うコミュニケーションを考察してみましょう。

自己紹介

自己紹介はクライアントに初めて会った時に必ず行います。“First impression is everything”ということわざにもあるように、自己紹介の成功がクライアントとの関係作り、ひいてはツアーの成功への第一歩です。実は自己紹介というのはコミュニケーションという観点から見ると特殊な作業です。それは相手に既に聞く体制ができていて、あとはアイコンタクトなどで相手の反応に合わせてペースを作り、ボディランゲージを交えて声の強弱などを微調整すれば良いだけなので、100%近く練習と同じ形で行えることになります。そのため事前に練習をしておく効果は絶大となります。

自己紹介の成功をきっかけに自分自身でFlowを作り出せれば、自信をもってその後のツアーをリードすることもできるはずです。内容は、名前、（仕事）、趣味、出身（居住地）、家族などの基本情報で十分です。笑いの要素もあるに越したことはありませんが、自分のキャラに合わないことはしないほうが良いでしょう。外見や振る舞いにも配慮し、ガイドとして信頼に足る人物であるということを知ってもらいましょう。

きっかけ作り

会話というコミュニケーションは「聞く」と「話す」が重要な要素ですが、その内容が、TPO（Time, Place, Occasion = 時、場所、場合）に即していないと、いかにも強引な印象を与え、時にはクライアントを苛立たせてしまうことがあります。そんな時、この「不自然な」会話を、スムーズで「自然な」会話へと変えてしまう魔法が、この「きっかけ作り」というとても重要な作業なのです。

特に、クライアントとの関係を築くための日常会話が目的であれば、「何を話すか」を考えようとするのではなく、目の前のクライアントをよく観察し、クライアントの現在（いま）、さらには過去・未来のことや、その人をとりまく家族や仕事のことなどに思いを巡らせてください。そうすれば自然ときっかけが生まれてくるはずです。

聞くこと、話すこと

きっかけ作りがうまくいったあとは、「自然な」話題に花が咲くことでしょう。ですが、ここで気をつけなければいけないのは、「話す」ことよりも「聞く」ことのほうが重要だということです。ガイドが自分の話を聞いてくれる、というだけで、信頼関係の形成に大きなプラスの効果を与えるということを忘れず、「7（聞く）: 3（話す）」くらいの感覚で、相手が話している時間を長く取るようにしましょう。

話す内容は、できるだけ楽しい話題にしましょう。もしも否定的な内容があった場合でも、別の観点から見ればプラスの面は必ず存在します。一般的には、天候だけは唯一ネガティブな内容でも大丈夫と言われていますが、登山中には注意が必要です。天気が良ければもっと良い景色が見られたはずなのに…、と言ってしまうと何か損をした気分になってしまいます。もしみんなが同じ天候体験を共有しているのであれば、雨の中でしか体験できない特別なことを発見し、仲間としての一体感を向上できる良いチャンスに変えていきましょう。

Chapter 10: 登山開始直前のブリーフィング

本来 Briefing とは、要点の説明や行動を起こす前の最終説明であると定義されています。入念な打ち合わせはツアー当日までに済ませているので、ここでは登山中に必要な事柄に絞った情報の共有を行います。登山当日に初めてクライアントと顔を合わせる状況ではガイドからの自己紹介から開始してください。また時間も 10 分程度かかることを事前に伝え、クライアントが快適に話を聞ける状況を作りましょう。例えばバックパックを降ろしてもらうことや、トイレを我慢している人がいないか声をかけること、また暑い日には日陰に誘導することなどです。ブリーフィングでは、確認し忘れを避けるために必ずチェックリストを事前に作成し、それに沿った確認を行ってください。参考として以下にチェックリストを紹介しますが、必要に応じて項目の削除・追加をし、カスタマイズして使ってください。

ブリーフィングでのチェックリスト

◇ 名簿による点呼
◇ 当日の健康状態チェック
　▶ 事前にもらっているメディカルフォームに相違がないか個別に確認
　　✔ プライバシーを確保した状態で行いましょう
◇ 行程確認
　▶ ルート、距離、標高差、歩行時間、トイレ情報、ハザード情報など
◇ 山でのマナー
　▶ 文化的なマナー、自然へのマナー
　▶ 登山者とのすれ違い時の注意点
◇ 天候情報の共有
◇ 本日のハイライトの紹介
◇ ギアチェック
　▶ 事前送付済みのリストを用いて、実際にクライアントに荷物を取り出させてチェックを行いましょう
　▶ 忘れ物のあった時の対応も考えておいてください
◇ クライアントの経験値に応じ、登山の基本のインストラクション

▶ パッキングのポイント
▶トレッキングポールの調整と使い方
▶基本的な歩き方
▶ブーツのフィッティングなど
◇ グループの場合は歩く順番の説明
◇ 緊急時の動きについて
◇ 天候と行程に合わせて、雨具の着用、水分補給、またサンスクリーンなどのアナウンス
◇ 最後に、バックパックの背負い方、ストラップの調整方法の説明など

Warming-up Exercise について

日本の登山者の間では、登山前に静的ストレッチを行う習慣が一般化していますが、実はこれは海外スタンダードから見るととても危険な状況です。筋肉がまだ温まっていない状態からいきなり静的ストレッチをすると筋骨格系へ無理な負荷が加わり、結果として関節等の故障を招きかねません。最近は日本でもようやく動的ストレッチというものが認識され始めてきましたが、まだ一般化してはいないようです。ACMG でも登山前の静的ストレッチは行わず、大きな動作を伴わないようにゆっくりと歩き始め、徐々に体を温めていくことを推奨しています。必要に応じて本格的な動的ストレッチを取り入れても良いと思いますが、もしよく分からない場合は、日本人なら誰でも良く知っているラジオ体操でも十分です。ラジオ体操は動的ストレッチそのものであり、また日本らしさが感じられる体験となるので、クライアントも楽しめると思います。

Chapter 11: 登山ガイディングの実行

以下に、登山ガイディング中に行う管理項目を紹介します。

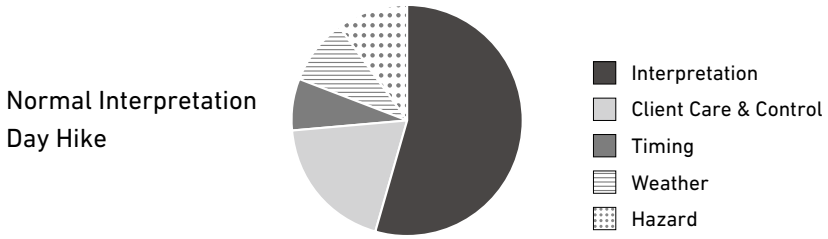
管理項目リスト

◇ 情報の整理
▶ビジターセンターへ：最新のトレイル状況を確認
◇ 登山届け
▶当日のクライアント情報をもとに所定の場所に提出
◇ クライアントの個人情報の管理
▶スマートフォンのデータとしてだけではなく、ハードコピーでクライアント情報をジップロックで管理
◇ ツアーアイテナリーの微調整
▶クライアントの様子や状況に合わせて休憩の場所やタイミングなどを調整
◇ 必要に応じて、適切なタイミングでインフォメーション
▶ここから先に現れるハザードについて具体的な対処方法
▶次の休憩のポイント
▶見どころ・撮影ポイントなど
◇ ガイド注力のバランス調整
▶ Hazard、Weather、Client Care、Interpretation
◇ クライアントケアとコントロール：「おもてなし」とも捉えられる重要な項目
▶安全、快適、満喫できる山旅の演出
▶登山インストラクション：全てのクライアントに共通する内容に対して行う
✓ルールやマナー、トレイル上でのすれ違い、登山ギアの使い方、登山テクニックなど

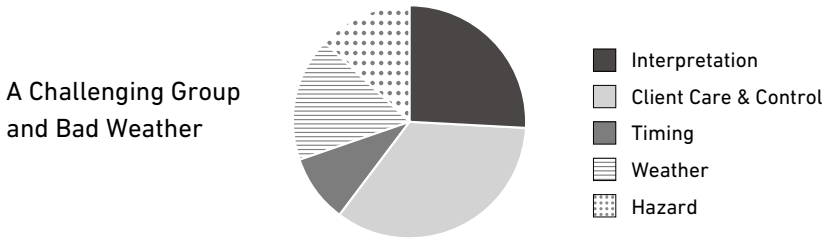
▶コーチング：必要に応じて個々のクライアントへ
✔歩き方やギアの使い方など
◇ 環境への配慮
◇ リスクマネジメント：特にリーダーシップが求められる項目
▶必要に応じ、適したタイミングで注意喚起や危険回避のためのインストラクションや行動
◇ 危急時対応
◇ ディブリーフィング
▶体調の確認
▶１日をハイライトとしてまとめ、クライアントが感じたことの共有など
▶必要に応じてインストラクションの復習、ストレッチなど
▶翌日の大まかなインフォメーションなど
◇ 必要に応じてチェックインのアシスト
▶山小屋の施設説明（ルールやマナーも）、注意事項、食事時間など

Chapter 12: ガイド注力のバランス調整

ガイディングの種類によりガイドが注力すべきフィールドは変化するべきです。注力のフィールドには、危険要素、天候判断、時間管理、クライアントケア、インタープリテーション、ルートファインディングなどが含まれます。例えば、技術的に難しくない日帰り登山などではガイドのフォーカスはコミュニケーションになります。コミュニケーションを通じてインタープリテーションを行い、またコミュニケーションを通じて水面下でクライアントケアを維持します。

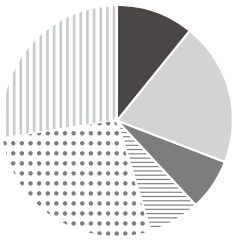


悪天候時などの難しい状況では、クライアントの安全と快適性を維持しつつ、グループ全体の管理をしなければいけないため、クライアントケアとコントロールが主要な懸念事項になります。このような時、インタープリテーション自体もグループコントロールのツールとして活用し、環境が生み出す危険要素の管理に多くのエネルギーが使われます。



バリエーションルートなどの Off-Trail では、注力は危険要素の評価、ルートファインディングなどに割り当てられますが、状況が許せば山旅の体験を向上させるために、インタープリテーションへも割り当てられます。

Difficult
Off-Trail Day Hiking



上記の例では注力のフィールドを示しましたが、実際のガイディングには、適した技術と知識をいつどこでどのフィールドにどれだけ注力するべきかを判断する、ソフトスキルも必要となります。

Chapter 13: クライアントケアとコントロール

ACMG においてクライアントケアがどのように捉えられているか見てみましょう。

- “Client care is what sets professional guiding apart from recreational activities. In a professional relationship, a guide puts aside personal ambitions and focuses on the clients’needs. The safety of the clients, the quality of their experience, and attainment of goals are the primary responsibility of the guide. In order to fulfill this requirement, a guide must manage clients effectively by communicating clearly, and in some situations exercising control to ensure safety. ..., client care is based around safety, comfort and enjoyment. Choosing trips suitable to the clients’profile is the first step to ensure a successful outing.”
  クライアントケアとは、単なるレクリエーション活動とプロフェッショナルとしてのガイディングを分けるものです。プロとしてのクライアントとの関係性においては、ガイド自身の個人的な野心は後回しになり、フォーカスはクライアントの求めることに向けられます。安全と良質な体験をクライアントへ提供し、また彼らの旅の目的を達成させることがガイドの主要な責任となります。これらの需要を達成するには、明確なコミュニケーションを用いて、ガイドはクライアントを効果的にコントロールしなければいけません。場合によっては、安全確保の為にはクライアントを制御することも求められます。このように、クライアントケアは安全管理、快適性、満喫を軸に形作られます。したがって、山旅の成功への第一ステップはクライアントのプロファイルに適したプランを提供することから始まります。

このように、ACMG では安全管理・快適性・満喫の 3 本をクラアントケアの柱として捉えています。以下に、その 3 つの概要を紹介します。

安全管理

クライアントの個人的目的を叶えることも重要ですが、安全の担保の為には目的達成と、許容できるリスクとの間でバランスを保つ必要があります。安全の担保の為には、場合によってはクライアントの個人的な目的は優先されないこともあります。安全確保にはいくつかのステップがあり、それらを上手く活用することで安全性が確立されていきます。

1）**Pro-active Control**
物理的な抑制を行わなくて済むように、クライアントに対して事前にルールを伝え、許容されない行動とは何かを共有することが必要です。

2）**Low level Control**
クライアントを疲労させないように歩くペースをコントロールしたり、水分補給のためにこまめに休憩を取っ

たりなど、わざわざ口に出して説明はしないものの、水面下ではガイドによるコントロールが働いています。日常会話などを通じて、日本人が得意な「察する」力を発揮することも良いでしょう。

3）Explicit Control

強制的なルールや規制は、特別な理由がない限り行使すべきではありません。従わせる必要がある状況では、その理由を明確に説明することが最も重要です。なぜ従わなければいけないのか、そうしなければどういう結果が待っているのかを理論的に理解してもらい、建設的な関係を保ちましょう。

例えば、クライアントが繰り返し登山道から外れて歩くことをしている場合、先ずは、何が問題かを指摘し、自然に対してどのような負荷がかかるのかを説明し、許容できる模範的な行動とは何かを伝えましょう。「ダメ」という言葉を用いる前に、こうした方が「良い」という表現を使い、強制的にルールに従わせるよりも協力を依頼するスタンスを試しましょう。コンプライアンスに正しく従っている場合には、“You are doing a great job of staying on the trail. Thank you for your effort”等のポジティブなフィードバックを行うことで建設的な関係を保つことができます。

場合によっては、例えば転びそうになったので腕をつかむなど、それらのステップを越して物理的なコントロールが必要な場合もあります。

快適性

クライアントの身体的、精神的な快適さを維持することはガイドの責任となります。物理的快適性は登山ギア、食べ物、環境要因からの保護などで担保されますが、精神的な快適性は単純に恐れなどだけでなく、例えば寒さなどの物理的不快性に起因することも多くあります。クライアントに接する際には論理的で落ち着いた態度で、そして自信を持って接してください。

また定期的にクライアントの快適さをチェックする必要もありますが、これは対話、観察、そして直観により捉えることができます。もしくは単純にクライアントに話しかけるだけで確認できることかもしれませんが、この方法の落とし穴は、不快なことが生じていてもクライアントは我慢してしまう傾向があることです。その問題は、ルーティン化された規則のようなものを設けることで解決できるかもしれません。例えば、歩き始めから30分でレイヤーブレイクを必ず設けて、体温の調整とホットスポット（ブリスターの手前の不快症状）のチェックを促すことなどです。ペーシングは一番遅い人が辛くないペースをガイドが生みだし、グループのスピードをコントロールしましょう。休憩のタイミングでトイレや水の補給の確認は必要ですが、あまり頻繁に聞きすぎると、それはそれでストレスになることもあります。

満喫

山旅が満喫できるものでなければ、それはただの苦行になってしまいかねません。早い段階でクライアントとのアイスブレイクをして、彼らにとってのメンターや友達としての側面から、彼らの旅の目的を知り、特別な体験を実現させてあげましょう。良く気が付く添乗員をイメージして、その「おもてなし」を真似するのも良いでしょう。

Chapter 14: 登山インストラクション & コーチング

登山では、必要に応じて登山スキルや安全に関わる考え方や行動等をクライアントへ教えることがあります。全てのクライアントに当てはまることは全体へ向けてインストラクションし、また特定のクライアントに当てはまることは、個別にコーチングすることが求められます。

登山インストラクション

ACMG では、以下の形式のインストラクションを推奨しています。

● “A successful guide is an insightful teacher, who has a variety of ways to teach a given task or lesson and is able to adjust to the needs and abilities of the clients. The guide should strive to master the material being taught and think of creative ways to present the lesson that involve the senses of seeing, hearing and doing. It is helpful if the guide divides the lesson into a logical progression of basic skills so that the clients are actively involved and have the opportunity to practice.”

ガイドとして成功している人は、技術や課題を教えるための様々な手法を持ち、またクライアントのニーズと能力に応じ、その手法を調整できる、ひらめきをもつ先生です。ガイドは教材をモノにする為の努力を続けるべきであり、視覚、聴覚そして体験を含むクリエイティブな方法を考えなければいけません。クライアントが積極的に学び、また練習する機会を持てるように、論理的に連続する基本的なスキルに課題を区切ると良いでしょう。

● Structured lessons should include the following components

課題構成は以下の要素を含むべきです

1. Discuss goal: What will be covered and why?
   目標を話し合う：どういう理由で何を扱うのか
2. Review previously learned prerequisite skills or techniques
   ここまでに学んだ条件となっていたスキル等の復習
3. Illustrate
   説明
4. Teach: Break skills into major points and create demonstrations that clients can see, hear and touch
   教える：教えるスキルを主要なポイントに分割し、クライアントが見て、聞いて、そして感じられるお手本を示す
5. Practice: Have clients carry out lesson with supervisions and coaching
   練習：クライアントが学んだ課題を、ガイドの観察と指導の下に実施させる
6. Closure: Provide clients the opportunity to reflect their learning before they have to apply the skills or techniques
   総括：学んだスキルなどを実際に使う場面に遭遇する前に、クライアントが実践的に試すことのできる機会を設ける

日本人が陥りやすいミスは、インストラクションなしに「注意してください！」と言葉だけで同じことを何度も繰り返すだけに終わってしまうことです。一体何をどのように注意すればよいのでしょうか？日本人のお客さん相手には「丁寧なガイドさん」として捉えられるかもしれませんが、海外のガイディングと比べると、日本のガイドには「不必要に形だけのアナウンスをしている」と捉えられかねない状況が多くみられます。実際にモニター登山では、「何を注意するのか説明してほしい」、「子供でもないのに繰り返し同じことを言われたくない」という声が多く聞かれました。インストラクションは、適したタイミングで、明確に、全てのクライアントに伝わるように行ってください。同じ内容のインストラクションが必要な場面が再度現れたら、本当に必要であれば同じ内容とボリュームのインストラクションを行い、そうでない場合には、例えば「枝に注意してください」などの簡易的なリマインドだけにとどめましょう。つまり、ちゃんとしたインストラクションの後でなければ「注意してください」は成り立たないのです。

何でもないようなことにまでも注意喚起しているガイドも多く見かけます。注意喚起とは、本来は本当に注意が必要な時に行うものです。そうでなければ本当に必要な時にその声は聴き流されてしまいます。例えば、継続してぬかるんだ道を歩いているのなら、「muddy and slippery」と言い続ける必要はありません。もし注意が必要な場面が何度も続けば既にクライアントも学習しているので、その後は特には言わずに、例えば、その注意が必要な場所の手前でグループの足をいったん止める、もしくはペースを落とすなどの Low -level Control でクライアントを

安全に通過させる、見守るスタイルも必要になってきます。

また日本人ツアー登山では、Guide to Client Ratio をみるとガイド一人に対するクライアントの数が多いために注意喚起などを伝言ゲームのように後ろへ伝えているシチュエーションをよく見かけます。しかしこれは、うまく実施しないと形だけのアナウンスになる危険性があります。もし伝言ゲーム方式を取り入れるならば、初めのインストラクションは全員に向かい実施し、その時にこの先に同じ場面が現れた場合は伝言ゲームを活用する旨も伝えてください。そのようなプロセスの後であれば、注意喚起のリマインド（例：Watch out for branches! Pass this on）として後ろに伝えてもらうことは問題ないと思います。しかしあまりにもグループが大きく、またペーシングを失敗してクライアントの間が空きすぎてしまっている場合には、この方法は形だけのものとなってしまいます。その危険性も含めて、インバウンドツアーでは、少人数制でテールガイド付きが理想的となります。

コーチング

Coach とは馬車を意味し、馬車は大切な人をその人が望むところまで送り届けるという意味があることから、コーチングは、人の目標達成を支援するという意味で使われるようになったようです。イメージとしては学習塾の個別指導や家庭教師をイメージすると分かり易いかもしれません。ACMG では以下のようにコーチングを説明しています。

- “Often the guide provides instruction in the form of coaching without planning a lesson and addressing the whole group. These mini-lessons are very effective because they are personalized and highly relevant. They increase efficiency and decrease fatigue by improving clients’ technique. It is important that the guide does not wait for clients to ask for help. The guide should consider coaching or offering tips whenever he/she observes inadequate technique, when difficult sections are encountered, or conditions change.”

  グループ全体ではなく個人に向けて、課題構成を伴わないコーチングの形式でのインストラクションも、ガイドは頻繁に行っています。これらのミニ課題は個人に向けてカスタマイズされるため、適切であり、また高い効果を発揮します。ここで重要なことは、ガイドはクライアントから助けを求められるまで待っていてはいけないということです。状況が悪化した時、難所、クライアントの技術がおぼつかない様子を目撃した場合にはいつでも、コーチングやコツを伝えることを考えてください。

Chapter 15: 環境への配慮

西洋の文化では人と自然は敵対する関係性にあり、童話などでも森は薄暗く魔物が住む場所として描かれてきました。特に一神教では自然は人が支配し管理すべきものであるとする考えがベースとして存在します。そのような考えのもと、例えばアメリカでは西部開拓時代から大規模な森林伐採や資源採掘が始まり、また環境負荷が極めて大きな機械化農業である agri-business が一般化していきました。ソローに代表される一部の知識人たちは森と共存する考えを提唱し、その後ジョン・ミューアはアメリカの国立公園化運動を推進し、シェラ・クラブを発足させました。60 年代にはレイチェル・カーソンによるサイレントスプリングが農薬の危険性を世界に訴え、環境アクティビスト達による様々なロビー活動を経て、現在では人々の環境に関する関心は非常に強く、オーガニック商品からフェアトレードまで、広くそして深く人々に受け入れられています。行政側も特にレクリエーションとして人々が活用する国立公園に関しては保全し、そして環境を守る厳しいルールを設けています。そういった文化背景があるからこそ、英語文化圏の登山ガイドは自然に対する steward としての役割も担っています。

一方、日本では神道やアニミズムの考えにより、里山に代表される循環型の生活からも分かるように、人と自然は切っても切れない関係性があり、自然は八百万の神の棲む場所であると考えられてきました。そのため、環境を有効活用することはあっても、破壊し再生できなくなるような利用はしてきませんでした。しかし高度成長時代か

ら日本での環境破壊や汚染は深刻化し、これまでに多くの問題を生み出してきました。最近は北米由来の Leave No Trace という新しいムーブメントも若者を中心に広がり始めています。

英語登山ガイドとしては、Pro-active にクライアントへ働きかけましょう。クライアントに環境配慮を正しく認識してもらう為には、彼らの文化圏における自然観を事前にリサーチし、また彼らにも日本の自然観を理解してもらうことから始めると良いかもしれません。歴史や文化は違っても、自然を愛し、気に掛ける心は同じはずです。ボタンの掛け違いによる問題も生じるかもしれませんが、環境負荷を最小限にする模範的な行動を全体へのインストラクションとして予め示すことで予防できると思います。それでも環境への配慮が足りない行動が目立つときには、個別のコーチングスキルを通じて、明確な言葉を使ってクライアントをコントロールしましょう。

Chapter 16: リスクマネジメント

リスクマネジメントとは、リスクを組織的に管理（マネジメント）し、損失などの回避または低減をはかるプロセスのことですが、ACMG でも以下のように説明されています。

- “A significant part of a hiking guide’s job is risk management...Both the guide and the clients must be prepared to share potential risks and rewards and work together to reduce risk to acceptable level. It is the guide’s responsibility to recognize and analyze hazards, minimize risks, and discuss hazards and risk with the clients.”

  登山ガイドの役割のうち、その大部分を占めるのがリスクマネジメントです。ガイド、クライアントの両者ともに、内包するリスクとそれにより得られる対価を承知し、そのリスクを許容範囲まで軽減させることに、共に向かい協力することが求められます。リスクを「認知すること」、「分析すること」、「軽減すること」、「危険要素とそのリスクについてクライアントと協議すること」、これらすべてはガイドの責任範囲となります。

ハザード（危険要素）には大きく分けて External Hazard（外的危険要素）と Internal hazard（内的危険要素）の 2 種類があり、どちらもコントロールが必要です。外的危険要素にはトレイルの状況、天候、野生動物などが含まれますが、そのコントロールは登山計画の段階から始まっているため、行き当たりばったりでは大きなリスクは避けられません。内的危険要素にはクライアントの疲労、不安、登山技術レベル、モチベーション、またグループの不協和音なども含まれます。内的危険要素へのリスクマネジメントには、ガイドとしてのこれまでの経験や人間力が必要になるでしょう。

Margin of Safety は円滑で効果的なコミュニケーションで稼ぐことができます。それにはガイドの声がクライアントに物理的に届いている必要があります。また注意喚起などのような重要な情報はシンプルにまとめて伝える必要もあります。クライアントがコマンドを正しく理解したかどうかの確認も必要ですが、what、when、where、why、who、how から始まる Open question を活用することで、確認が確実なものとなります。 例えば “Should we spread out when we get above tree line?” と聞いてしまうと、理解していなくても Yes or No で回答できてしまいます。“What should we do when we got above tree line?” のような open question で確認をすることで、クライアントがコマンドを正しく理解したかどうかを確かめることができます。

危険個所の通過などでは、外的要因と内的要因が重なった時にリスクが最大となりますが、クライアントの技術レベル、地形や環境のリスク等に合わせ、状況にあった注意喚起を行いましょう。英語に自信がないガイドは消極的になり、とっさにどのように表現するべきか迷い、言葉に詰まることや、声も小さくなることもあるかもしれません。参考として、以下に英語表現の一部を紹介しますが、これを鵜呑みにせず、本番に備えて下見の時に必要な表現を自分で調べてリスト化し、ルートカードに落とし込んでおきましょう。本番では聞こえやすい環境を作り出し、アイコンタクトを意識し、自信をもって、はっきり、ゆっくりと、そしてシンプルに発言してください。

注意喚起フレーズ

1. ラークッ！（落石）：Rock!
2. 注意して！：Heads up! / Look out!
3. ～に注意して：Watch out for ～ / Watch your ～
4. 浮石：Unstable rock
5. 滑りやすい：Slippery
6. ペースを落として：Slow down
7. 靴紐が緩んでいます：You have a loose shoelace
8. 間隔をあけて：Spread out
9. 前を歩いている人のフォールラインには入らないで：Look up and do not get into the fall line of other hikers
10. 鎖の支点から振られないように垂直に降りて：Trust this chain handrail and go straight down, otherwise you will be swung from the pivot point
11. 1 列で：In single file
12. 一人ずつで：One at a time
13. 立ち止まらずに通り抜けて：Go through without stopping
14. 山側に寄って：Step aside on mountain side
15. 登山者（下山者）が後ろから近付いている：Other hiker is coming up(down) from behind
16. 登山者（下山者）を先に行かせて：Let the ascending(descending) hiker pass
17. ストックはしまい両手には何も持たないように：Store away your hiking pole(s) and keep your both hands free
18. 飛び降りないで：No jumping off
19. このロープは引っ張らないで：This rope is not strong enough / you cannot trust this rope
20. この岩を手すり（取手）にして：Use this edge of the rock as a handrail(hand hold)
21. これを足掛かりにして：Use this as a foot hold
22. 鎖の杭の間には 1 人だけ：When using a chain handrail, only one person between the anchors at a time
23. 山側に重心を傾けないように：Do not lean against the slope
24. 頭、肩、腰の重心を垂直に保って：Keep 3 points of heavy weight centers perpendicular.
25. 小股で：Walk with small steps
26. 肩幅であるいて：Walk with your feet shoulder-width apart
27. 落ち着いて後ろに下がって：Stay calm and slowly back up
28. 道を空けて：Make space for other hikers
29. 凍っている雪渓の淵は避けて：Avoid stepping on the icy edge of this snow patch

ここからは法的側面からのリスクの洗い出しと対応策を考えてみましょう。以下の内容は「登山指導者（リーダー）の法的責任について考えよう」（国立登山研修所アドバイザー　渡邉　雄二　作成）より抜粋したものです。これを参考に、国内登山ガイドに問われる責任について各自で改めて学習の上、実際の英語登山ガイドに臨んで頂ければと思います。

一般的なリーダーの責任

1. リーダーは、登山の始めから終わりまで、危険を予見し事故を回避して、グループを安全に引率する責任を負う。
2. 参加者へは事前に登山の内容について十分な説明を行い、注意事項や参考資料等を配布する。（説明責任）
3. 書面で責任を負わない旨の記述をしている場合、誓約書を交わしている場合でも、法的責任を免れることは

できない。

4. 事故が起こった場合は、正しい判断のもとに行動し、真摯に対応する。
5. その他
   ◇ 参加者の力量を把握できない場合は、計画に余裕を持たせ、無理のない行動計画を立てる。参加者の力量を過大評価することは危険。
   ◇ 参加者の健康状態には、常に注意を払っていること。
   ◇ 計画段階から記録をとっておく。
   ◇ 参加者への旅行傷害保険や遭難対策保険の加入の確認とリーダーの責任賠償保険には必ず加入する。

山岳事故判例からみた過失の具体的基準

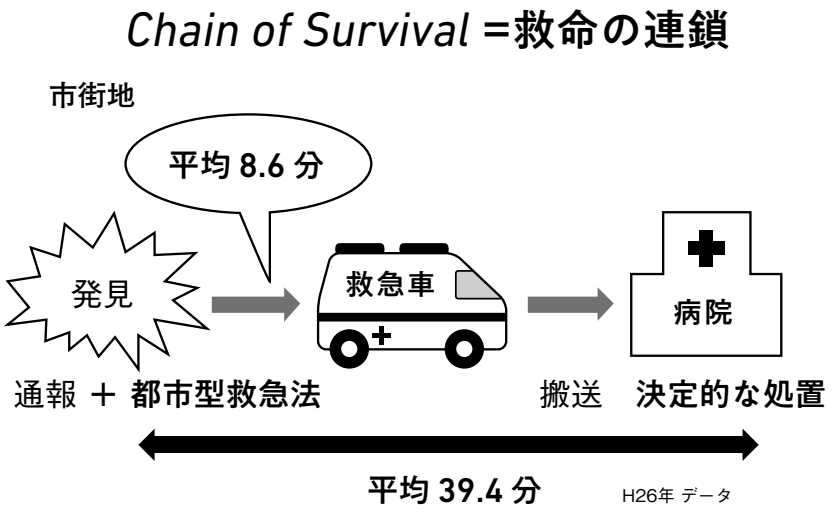
1. 参加者の経験、年代、技術能力を的確に把握しているか
2. 参加者のレベルに応じた登山計画か
3. 事前の現地調査や机上学習が適切か
4. 天候調査や天気図作成などの気象情報の事前・山行中での随時収集は適切か
5. 事前に参加者への説明（コース状況、事前準備、トレーニング等）が十分になされているか
6. リーダーとしての条件を充たしているか
7. 参加者の健康状態を常に把握しているか
8. 現地での当日の状況に応じ必要な助言・監督などを適切に行っているか
9. 事故前後の対応が適切か
10. 事故を避けるための注意義務を十分に果たしているか

法律上のトラブルを避けるために

1. 危険性の説明義務
2. 責任の範囲の明確化
3. 損害賠償保険の加入

クライアントが自国に戻った後でも訴訟問題は起こり得ます。法の適用に関する通則法第 17 条第 1 項では「不法行為によって生ずる債権の成立及び効力は、加害行為の結果が発生した地の法による。ただし、その地における結果の発生が通常予見することのできないものであったときは、加害行為が行われた地の法による。」と定められています。ですので、例えば登山中の落石が原因で自国に帰ってから死亡した場合には、その国の法律でガイドが裁かれることになるケースも起こり得ます。海外の法廷で有利になるために、北米に習いクライアントにWaivers（免責同意書）を事前に書かせている人もいるかもしれませんが、日本と同様に北米社会でも責務を逃れるための免罪符とはなりません。しかし、危険同意書としての意味合いもあることから、クライアントが「内包するリスクを承知した」という証拠を残すために、北米では Waivers は慣習として一般的に行われています。Waivers を書いてもらう場合には、英文で 2 部作り、ガイドの目の前でクライアントに文面を読んでもらい、読んだことを証明するサインを本証とコピーの両方に書いてもらいましょう。また第三者に、クライアントが読んでいたということを証明するサインも本証とコピーの両方に必要となります。コピーはクライアントに、本証はガイドが管理してください。

Chapter 17: 危急時対応



資料提供：一般社団法人ウィルダネス メディカル アソシエイツ ジャパン

上記の図は市街地における「救命の連鎖」を示したものです。日本では、確立された都市救急システムにより、市街地でのケガや病気には、通報から約 10 分以内に救急車が現場に到着します。救急車に収容された傷病者は車内で詳細なチェックを受けて、それに基づき搬送先の病院が特定され、救急搬送されていきます。このシステムをさらに強化するために、一般人でも躊躇なく実施できる簡易的な救急法である「都市型救急法（例えば日本赤十字社や消防が実施する救急法）」が開発され広く普及しました。ここで注意したいのはこの都市型救急法はあくまで簡易的であり、救急車が現場に 10 分以内に到着することを前提に作られたカリキュラムである点です。そのことを理解しないと、「山岳でのケガや病気にも都市型救急法で対応できる」という間違った考えが生まれてしまいます。山岳という環境は上記のような都市救急システムが機能しない場所、つまりは破綻している状況です。北米ではその状況を Wilderness Context（ウィルダネス状況下）と呼び、ウィルダネス状況下では Wilderness First Aid（野外災害救急法）が必要であると一般的に認識され、登山ガイドにとどまらず広く一般へも普及しています。

ここまでに参考としてきた「ACMG 登山ガイド資格」の取得には、WFR（Wilderness First Responder）資格（80 時間レベルの野外災害救急法）の取得が前提条件として義務付けられています。このようにカナダの国立公園で登山ガイド業を行う際には、WFR が必要であると国で定められており、アメリカ国立公園内でも同じ規制が存在します。一方日本国内では、WFR の資格が必須と定められた登山ガイド資格が存在しません。しかし、訪日外国人のクライアントは、アンケート結果からも分かるように、日本人の英語登山ガイドにも海外の登山ガイドと同レベルの危急時対応力を求めています。では、海外で登山ガイドが必須で取得している WFR 資格とは一体どのようなものでしょう？

Wilderness Medical Associates International ホームページでの WFR 資格の紹介

“The Wilderness First Responder program is the ideal medical training for leaders in remote areas including outdoor educators, guides, military, professional search and rescue teams, researchers, and those involved in disaster relief. The curriculum is comprehensive and practical. It includes the essential principles and skills required to assess and manage medical problems in isolated and extreme environments for days

and weeks if necessary."

WFR プログラムは、野外教育者、ガイド、軍隊、プロの捜索救助隊、災害救護に関わる人など、遠隔地で活動するリーダーへの理想的な医療トレーニングです。カリキュラムは包括的であり実践的内容になっています。カリキュラムには、過酷な環境下に数日から数週間孤立した状態になったとしても、医療問題を評価し処置するために必要な原理原則とスキルが内包されています。

北米には多くの野外災害救急法コースの開催団体（プロバイダー）がいますが、中でも約 40 年にわたり業界のスタンダードを作り上げてきた団体が WMAI（Wilderness Medical Associates International）です。この団体は、雨後の筍のように散在する北米のプロバイダー達に呼び掛け、今日の業界スタンダードとして認識される "Minimum Guidelines and Scope of Practice for Wilderness First Responder" を作り上げた団体です。このガイドラインは、例えば ACMG のガイド資格を取得する際に必要な救急法のスタンダードとしても採用されています。AMGA のガイド資格への必須条件を紹介するページ（https://amga.com/rock-guide/）にも、この上記ガイドラインが確認できます（https://amga.com/wp-content/uploads/2013/07/minimumguidelineswfr2015v1-2.pdf）。国内では WMAI 公式日本窓口である「一般社団法人ウィルダネス メディカル アソシエイツ ジャパン（WMAJ）」により、WFR コースを含む 5 種類のコースが日本語で開催されています。また WMAJ は日本国内でも英語 WFR コース等も定期的に開催しているのが特徴です。その他、WMTC（Wilderness Medical Training Center）もガイドラインに準拠した内容で WFR コースを国内で開催しています。

Minimum Guidelines and Scope of Practice for Wilderness First Responder

ガイドラインに内包される WFR の項目を考察することで、英語登山ガイドに求められる知識と技術を確認することができ、またそれらの項目だけでも、英語で確認することで実際の危急時対応にも役立てることができるので、以下にガイドラインの概要を紹介します。

Focus is on：ガイドラインの焦点

1. A basic physical exam to identify obvious injuries or abnormalities, assessing signs, symptoms, and vital sign patterns, along with obtaining a relevant patient history.

   傷病者からの口頭確認（問診）と共にバイタルサインの傾向や徴候／症状を評価することで判断できる異常、また分かり易い外傷を特定するための基本的な全身確認。

2. Prevention of medical problems anticipated by the activity and environment.

   活動内容や環境要因から誘発される内科的（医療的）な問題の発生予防。

3. Recognition of environmental conditions that may lead to problems and taking steps to mitigate the environmental challenge.

   問題発生につながる環境的要因の認識、そして環境負荷を軽減する対策を講じる。

4. Treatment focused on stabilization of emergencies, initiation of specific and appropriate medical treatments (splints, wound care, spine injury management, managing environmental threats, etc.) and assisting patients utilizing their personal medications,

   緊急事態の安定化にフォーカスした処置、特定の正しい医療的処置（スプリント固定・創傷の処置・脊椎損傷のマネジメント・環境ハザードのマネジメントなど）の開始、そして傷病者の持ち合わせる救急用品を彼らが有効活用できるようにアシストすること。

5. Conservative decisions on the need for, urgency of and appropriate type of evacuation and for interventions appropriate for this level of training.

   適した医療的介入を受けるための、適した避難方法の必要性と緊急性を知るための保守的な意思決定。

Patient Assessment and Basic Life Support (BLS)：傷病者評価システム（一次救命処置）

1. Respiratory System　呼吸器系システム
2. Circulatory System　循環器系システム
3. Nervous System　神経系システム

Circulatory System

1. Shock　ショック（循環器不全）
2. Acute Coronary Syndrome　急性冠状動脈症候群

Respiratory System

1. Respiratory Distress　呼吸困難
2. Respiratory Failure　呼吸不全

Nervous System

1. Traumatic cause of abnormal mental status　外傷が原因による精神状態の異常
2. Non-traumatic cause of abnormal mental status　外傷以外の原因による精神状態の異常

Trauma　外傷

1. Spine Injury　脊椎損傷
2. Soft Tissue Injury　軟部組織の損傷
   ◇ Wounds　創傷
   ◇ Infection　感染症
   ◇ Burns　熱傷
3. Musculoskeletal Injuries　筋骨格系への損傷

Environmental Medicine　環境医療

1. Heat Illness　熱に起因する病気
   ◇ Heat exhaustion / dehydration　熱疲労／脱水症
   ◇ Heat stroke　熱射病
   ◇ Hyponatremia　低ナトリウム血症
2. Hypothermia　低体温症
   ◇ Mild Hypothermia 軽度低体温症
   ◇ Severe Hypothermia　重度低体温症
3. Local Cold Injury　局所的寒冷障害
   ◇ Frostbite　凍傷
   ◇ Non-freezing Cold Injury　塹壕足など
4. Altitude　標高
   ◇ Acute Mountain Sickness (AMS)　急性高山病
   ◇ High Altitude Cerebral Edema (HACE)　高地脳浮腫
   ◇ High Altitude Pulmonary Edema (HAPE)　高地肺水腫
5. Lightning　落雷
6. Submersion – Drowning　溺水障害

Medical Problem　病気（内科的問題）

1. Flu-like illness, Nausea / Vomiting / Diarrhea, Fever, Cough, Upper Respiratory Infection　風邪様の症状、吐き気／嘔吐／下痢、発熱、咳、上気道感染症
2. Abdominal Pain　腹痛
3. Allergy　アレルギー
4. Anaphylaxis　アナフィラキシー
5. Genito-Urinary　泌尿―生殖器
6. Dental 歯科の
7. Diabetes　糖尿病
8. Eyes and Ears　目と耳
9. Poison Ivy, Oak, Sumac　ウルシ等
10. Sunburn　日焼け
11. Motion Sickness　乗り物酔い

Toxin　毒物

1. Poisoning　服毒
2. Snake bite　ヘビによる咬傷
3. Arthropods　節足動物

Medical Legal　医療と法

1. Duty to Act and Good Samaritan Laws　助ける義務のある状況と良きサマリア人の法
2. Scope of practice and standards of practice 実施範囲と実施におけるスタンダード
3. Consent and confidentiality　黙示の同意と守秘義務
4. Medical Protocols　医療プロトコル
5. Medication Administration　薬剤の投与

実際の危急時対応には、日本語ベースでの野外災害救急法資格（理想的には WFR）の取得、並びに英語での練習会などへの参加が推奨されます。参考までに、ここに簡易的な評価シートを紹介しますが、これは一般人向けに作られた「緊急通報シート」と呼ばれるもので、救命の連鎖がまだ破綻していない状況を想定して作られたものですが、119 番通報をする判断基準や救急車を待つ間にできることが紹介されているので、野外での用途にも役に立つはずです。日本語版と英語版が WMAJ のウェブサイト（WMAJ ウェブページ：http://www.wildmed.jp/）より無料ダウンロード可能ですが、ここではインバウンドに役立つ、英語版を紹介します。

Emergency Assessment

When you are not sure if you should call #119 of #110…

① RED requires initiation of EMS: Call #119 or #110

意識 **Consciousness**	意識なし **Not Awake**	なにかおかしい **Something Wrong**	通常どおり Normal
呼吸 **Breathing**	呼吸なし **Not Breathing**	なにかおかしい **Something Wrong**	問題なし Nothing Wrong
	something Wrong means (difficult to breath or Strange Noise when breathing)		
出血 **Bleeding**	おびただしい量が出ている **Bleeding a lot** (gushing)	体表面の小さな出血 Just a minor bleeding	出血なし No Bleeding
背骨の損傷 **Spine Injury**	背中や頭に強い衝撃を受けている **Can't deny major Trauma**	衝撃なし No major trauma	

② When you call, you may need the Information bellow

傷病者情報 **Patient information**	氏名 **Name**	年齢 **Age**	性別 **Sex**
発生現場 **Location of the accident**		救助者氏名 **Your name** 救助者電話番号 **& Phone #**	

③ When you call EMS dispatch, you should state …

- ✧ Fire or ambulance? → "Ambulance"
- ✧ Location of the accident & the number of patients.

④ While you are waiting for an ambulance / a rescue team…

- ✧ Protect the patient from the environment; See the back of this sheet for tips
- ✧ Gather patient's information for the ambulance crew/ rescue team

記録時間 **Time of this record**		何が起きたのか **How it happend**	
主な訴え **Chief compliant**		アレルギー **Allergy**	
薬の摂取 **Medication**		関連する傷病歴 **Related Medical History**	
直前の飲食と排泄の時間、量、質 **Time/Quantity/Quality of last meal/drink/toilet**			

Wilderness Medical Associates Japan

World standard of Wilderness First Aid

※このシートを使われている方へ、適切なサポートをお願いします！

©Wilderness Medical Associates Japan all right received.

Hypothermia can be prevented

① Close all 4 passages for Heat Loss

Evaporation

When moisture evaporates, it takes your heat away!

Do not get wet in the first place. If so, dry or change your clothes. If no other option, tightly package Yourself with a water-proof tarp, etc.

Convection

Wind takes your heat away!

Make an outer shell with a tarp, so that the air does not touch your body directly.

Radiation

Your body dissipates heat!

Wrap your body with Emergency sheet or blanket which help prevent radiative cooling. It's better to put heat source inside.

Conduction

Direct contact to the ground or cemented surface takes your heat away!

When lying down, place a foam mattress or layers of cardboard. (minimize the area of contact)

The front of this package is not closed in order to show the inner layers. Minimize the open area only to the face.

② Get calories onboard !

Hydration + Foods (simple sugar / carbohydrate / protein / fat). Once warmed enough, keep adding Fat to help stay warm. Alert: Do not give any foods patient has allergy to.

③ Uncontrollable Shivering with Drowsiness; Call#119 !

Our Wilderness First Aid courses.

Basic	Advanced	Professional	Medical professional	Doctor or equivalent	Custom Workshop

また医療通訳の専門知識の範囲になりますが、厚生労働省のホームページからダウンロードできる「医療通訳（医療通訳育成カリキュラム基準 平成 29 年 9 月版準拠）」の巻末には単語集が収録されており、医療的な専門知識なしにはすべてを理解することはできませんが、辞書のように索引して必要な部分のみ使う活用方法であれば、英語登山ガイドにとっては打って付けの参考書となります。単語集では以下の表現を確認することが出来ます。

▷ 人体各部器官名称
▷ 症状に関する表現
▷ 薬に関する用語
▷ 検査に関する用語
▷ 病名に関する用語
▷ 関連用語

参考　https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000385188.pdf

Chapter 18: チェックイン インフォメーション

訪日旅行者の多くは、日本に 2 週間近く滞在します。そのうちの 1 日だけ登山日にする方、数日間を山の中で過ごす方、もしくは数日空けて再度登山をする方もいるかもしれません。数日間にわたる Multi-day Hiking をガイドする際には山小屋へのチェックインのサポートもガイドの重要な仕事となります。以下に、時系列でチェックインの流れやポイントを紹介します。

チェックインからの流れ

- まずは荷物を降ろし、他の人の邪魔にならないように一か所にまとめる
- 添乗員がいない場合はガイドが代表でチェックインを済ませる
  - ▷ 事前に特別なオーダーをしている場合は、その確認
    - ◇ 特別食オーダー（meal request）、個室オーダー（request for the single supplement）など
- 以下の確認事項をクライアントへ共有
  - ▷ 山小屋でのルール（rules and a regulations of the hut）
  - ▷ 靴の置き場について（use of a shoe shelf）
  - ▷ 乾燥室について（use of drying room）
  - ▷ トイレ・洗面について（use of restrooms）
    - ◇ 飲料水（＆お湯）の入手方法（how to obtain potable water and hot water）
    - ◇ 歯磨きの場所（where to brush one’s teeth）
    - ◇ 歯磨き粉使用の可否（use of tooth-paste）
    - ◇ 洋式トイレの有無（availability of the Western-style toilet）
    - ◇ 紙はゴミ箱か？便槽か？（where to dispose of toilet paper; In a specified garbage bin or into the latrine pit? ）
    - ◇（風呂やシャワーのある小屋の場合）場所と使用可能な時間帯、細かいルール（operation hours of the bathroom and etiquette）
  - ▷ 売店について（vending in the hut）
    - ◇ 営業時間（operation hours）
    - ◇ 生ビールの有無と価格（availability and price of draft beer）
    - ◇ 水の価格（price for X liters of water）
  - ▷ 携帯電波状況（cell-phone reception）
  - ▷ Wi-Fi について（fee for Wi-Fi service if available）

- ▷ 携帯電話の充電について（charging batteries）
  - ◇ 場所、値段、可能な時間帯
- ▷ 部屋割り（assignment of rooms）
- ▷ 消灯時間（lights-out time）
  - ◇ 消灯後はヘッドランプが必要かどうか（headlight use after lights-out time）
- ▷ 喫煙場所（smoking area）

● 夕食にアテンドし、ホストとして食事の説明やコミュニケーション

● 夕食後の流れのアナウンス

- ▷ 朝食時間と場所
  - ◇ 弁当の場合は受け取りの時間と場所
- ▷ 翌日の行程に関するミーティングの場所と時間

● ミーティング

- ▷ ボリュームのある内容は夜までに終わらせ、翌朝は簡単なブリーフィングにとどめる

Natural History 英単語

Geology（地質学）・Geography（地理学）	
日本語	英語
マントル	mantle
地殻	plate / earth's crust
大陸棚	continental shelf
土	soil
有機土壌	organic soil
砂地	sandy soil
砂丘	dune
地質	geology
岩石	rock
石の組成	rock formation
化石	fossils
磁気を帯びた岩	magnetic rock
鉱物	minerals
鉱石	ore
鉄	iron
金	gold
銀	silver
銅	copper
亜鉛	lead
ケイ素	silica
硫黄	sulfur
火成岩	igneous rock
火山岩	volcanic rock
黒曜石	obsidian
安山岩	andesite
玄武岩	basalt
深成岩	plutonic rocks
花崗岩	granite
堆積岩	sedimentary rocks
泥岩	mudstone
砂岩	sandstone
石灰岩	limestone
石灰岩台地	limestone plateau
石炭	coal
変成岩	metamorphic rock
自然風景	natural landscape
地質形成	land formation
地層	stratum
堆積作用	sedimentation
地層のずれ	stratum deformation
断層	fault
火山	volcano
休火山	dormant volcano
活火山	active volcano
死火山	extinct volcano
火山列島	volcanic archipelago
噴火	eruption
成層火山	stratovolcano
火砕流	pyroclastic flow
火山灰	volcanic Ash
シラス台地	white sand plateau
関東ローム層	loamy layer of the Kanto District
スコリア	scoria
溶岩	lava
噴火口	crater
カルデラ	caldera
カルデラ湖	crater lake
溶岩洞窟	lava cave
堰止湖	dammed lake
平原	plain
高原	high plateau
丘陵地	hilly area
草原	grass land
鍾乳洞	limestone cave
水の供給	water supply
水が浸み込むこと	infiltration
湿原	wetland / Bog
低地	low ground
高層湿原	high moor
山地	mountain terrain
山脈	mountains / mountain range
大山脈	cordillera
褶曲山脈	fold mountains
隆起した海底	raised seafloor
堆積層	layer of sediment
沈下・沈降	submersion
浸食	erosion / weathering
沈水海岸	downed coast
海峡	strait
半島	peninsula
群島	archipelago
岬	cape
リアス式海岸	rias coast
入り江	inlet
広い河口	estuary
浅瀬	ford
潟	lagoon
陸繋島	tombolo
砂州	sand bar
環礁	atoll

Climate / Weather（気候・気象）	
冷帯気象（亜寒帯）	subarctic climate
太平洋気候	pacific coast climate
日本海式気候	Japan sea cost climate
高温多湿	hot and humid
内陸性気候	inland climate
降雨	precipitation
多雨	high rainfall
降水量が少ない	low precipitation
日照時間	daylight hours

瀬戸内海気候	Seto inland sea climate
比較的温暖	relatively mild
亜熱帯気候	subtropical climate
北西季節風	northwest seasonal wind
からっ風	strong dry wind
フェーン現象	foehn phenomenon
対流	convection
硬水	hard water
軟水	soft water
雨	rain
にわか雨	shower
梅雨	rainy season
土砂降り	pouring rain
霧雨	drizzle
雹（ひょう）	hail
樹氷	rees covered with hoary frost
体感温度（風速冷却）	sensible temperature（wind chill）
濃霧	dense fog
流氷	ice drift
寒さの厳しい日が続く	a long spell of cold winter
冷害	cold-weather damage
雪	snow
豪雪地帯	heavy snowfall areas
Environmental Issues（環境問題）& Natural Hazards（自然災害）	
森林伐採	deforestation
砂漠化	desertification
地球温暖化	global warming
温室効果	greenhouse effect
温室効果ガス	greenhouse gasses
水蒸気	water vapor
二酸化炭素	carbon dioxide
オゾン	ozone
メタン	methane
水質汚染	water pollution
土壌汚染	soil contamination
海洋汚染	marine pollution
大気汚染	air pollution
がけ崩れ	landslide
雪崩	avalanche
落石	rock fall
ハリケーン	hurricane
嵐	storm
台風	typhoon
干ばつ	drought
洪水	flooding
熱波	heat wave
吹雪	blizzard
突風	blast of wind / gust of wind
ゲリラ豪雨	sudden down pour
津波	tsunami
高潮	high tides
地震	earthquake

Atmosphere（大気圏）	
大気圏	atmosphere
対流圏	troposphere
成層圏（オゾン層）	stratosphere
中間圏（電離層）	mesosphere
熱圏（電離層）	thermosphere
放射冷却	radiative Cooling
天気	weather
気候	climate
大気圧	atmospheric pressure
偏西風	westerlies
湿度	humidity
露天	dew point
飽和	saturation
地形性の降水	orographic precipitation
風上側	windward side
風下側	leeward side
遮（しゃ）雨域	rain shadow
前線性降雨	frontal Precipitation
寒冷前線	cold front
積雲	cumulus clouds
温暖前線	warm front
層雲	stratus
停滞前線	stationary front
太陽光エネルギー	solar energy
地軸の傾き	inclination of Earth's axis
春分	vernal equinox
夏至	summer solstice
秋分	autumnal equinox
冬至	winter solstice
経度	longitude
タイムゾーン	time zone
緯度	latitude
赤道	equator
地形図（Topographic Map）	
登山地図	hiking map
地形	land features
複雑な地形	complex topography
地勢	lay of land / topography
標高	elevation
等高線	contour line
方位	direction
偏差	decrination
自然堤防	natural levee
山頂	peak / summit
鞍部	col
峠	（mountain）pass
雪庇	cornice
凸面	convex
凹面	concave
盆地・（河川の）流域	basin
くぼ地	hollow
断崖絶壁	sheer cliff

尾根	ridge / the spine of a mountain / arete
岸壁（バットレス）	buttress
渓谷	canyon / valley / gullies / gorge / ravine
斜面	slope / hill
ガレ場	scree slope / loose rock / accumulation of small rocks
一枚岩	monolith
スラブ	slab
岩棚	ledge
崖錐	talus
階段状地形	terrace
草の生えた斜面	vegetated slope
ぬかるんだ	muddy
人工物	cultural landscape
登山道	trail / route
橋	bridge
堰堤／ダム	dam
堤防	levee
登山道	hiking trail
手すり	hand rail
送電線	power line
電線	electric wire
水力発電所	hydroelectric power plant
水道管	water pipe
鉱山	mine
山小屋	mountain hut
避難小屋	shelter / Hut
野外トイレ	outhouse / toilet
東屋	arbor
水場	spring
テン場	designated camping ground
ビジターセンター	visitor center / information center
祠	small shrine
山城	mountain castle
登山届け	hiking registration form
国立公園	national park
国定公園	quasi-national park
私有地	private property
立ち入り禁止	no trespassing
地下水	ground water
流域	drainage basin
地下水面	water table
氾濫原	flood plain
扇状地	alluvial fan
蛇行	meander
川（大⇒小）	river > stream > brook > creek
清流	limpid stream
滝 ／小さい滝	fall / cascade
河口	mouth of river
氷河	glacier
土手	river bank
湖	lake
池	pond
沼	bog / moor / mash land
低湿地	swamp

ラムサール条約	the Ramsar Convention
渦潮	whirling current
温泉	hot spring
間欠泉	geyser / intermittent spring
Mountain Culture / Religious Practices（山岳文化・宗教的慣行）	
初日の出	the sunrise on New Year's Day
ご来光	sunrise viewed from the top of a high mountain
山岳信仰	mountain worship
講	religious association
修験道	mountaineering ascetism
山伏	mountain ascetics
霊山	sacred mountain
霊廟	mausoleums
国教	state religion
神道	Shinto
内容：自然崇拝 animism と先祖崇拝 ancestor worship から生まれ 経典 script はなし	
国家神道	State Shinto
神社	shrine
奥宮	inner shrine
しめ縄	sacred rice straw rope for warding off evils
巫女	shrine maiden
神棚	Shinto home alter
多神教	polytheism / polytheistic religion
八百万の神々	multitudinous gods
道祖神	a travelers' guardian deity
氏神 / 守護神	guardian deity
四天王	four great guardian deities
伊勢神宮	the Grand Shrine of Ise
伊勢参り	pilgrimage to the Grand Shrine of Ise
風神	the god of wind
雷神	the god of thunder
天照大神	god-ancestors of the imperial family
神仏習合	synthesis of Buddhism and Shinto / syncretization of Shinto with Buddhism
神宮寺	shrine temple
本地垂迹	the theory that the Shinto gods are earthly manifestation of the Buddhas and Bodhisattva
神仏分離	the separation of Buddhism and Shintoism
廃仏棄釈	the movement to abolish Buddhism
仏教	Buddhism
悟り	enlightenment
仏教伝来	introduction of Buddhism
鎮守府	the fortress court
仏教国家	Buddhist nation
寺	temple
五重塔	five-storied pagoda
国分寺	provincial monasteries
経典	sutra
門徒	followers

寺受け制度	the system of certifying people's affiliation with Buddhist temples
宗門人別改帳	religious census
お布施	offering to Buddhist monks
お遍路さん	Buddhist pilgrims
お盆	Buddhis midsummer festivals to welcome the souls of the dead
お彼岸	Buddhist services performed during the equinoctial week
墓参り	visiting one's ancestor's grave
除夜の鐘	temple bells speeding the old year
密教	esoteric Buddhism
自力本願	salvation by ascetic training
即身仏	becoming a Buddha while still in the flesh
修行	ascetic training
浄土思想	Pure Land Buddhism:
内容：die a happy death and go to paradise by prayer	
他力本願	alvation by faith
浄土宗	the Jodo sect
如来（仏陀と同格）	Tathagata: a person who has attained Buddhahood
菩薩（まだ修行の身であり、悟りを開いていない）	Bodhisattva / a Buddhist saint
不動明王（明王とは仏教徒にいまだなっていない者を導く仏のこと）	Acala / the God of Fire
金剛力士	the colossal wooden guarding statues for the Buddha
風水	feng-shui
鬼門	demon's gate
信仰としての山は日本特有と思われがちですが、実は世界の山々を見ると日本以外にもいくつもあることが分かります。例えば、中国には Mt. Tai や Mt. Emei, スリランカには Sri Pada Adam's Peak、オーストラリアには Uluru、アメリカには Mt. Shasta、ペルーには Machu Picchu、ギリシャには Mt. Athos、フランスの Puy de Dome、エジプトの Mt. Sinai、そしてタンザニアの Mt Kilimanjaro 等も信仰の山として知られており、クライアントも既に登ってきているかもしれません。	

Airt & Culture（芸術・文化）

絵画	picture
彫刻	sculpture
書道	the art of calligraphy
建築	architecture
工芸	craftwork
造形芸術	figurative arts
仏像	Buddhist image (statue)
アルカイク・スマイル	archaic smile
寺社仏閣	shrines and temples
仏教文化	Buddhist culture
仏教寺院	Buddhis temple
校倉造	a type of storehouse construction with walls made of interlocking timbers
権現造	style of architecture in which outer and inner shrines are joined by a paved room
本堂	the main hall of a Buddha temple
御本尊	the principal image
講堂	lecture hall
曼荼羅	mandala
蒔絵	the art of lacquering and sprinkling furniture with metal powder
大和絵	Yamato-e paintings
寄木作り	a method of constructing a statue by assembling pieces of wood
一本作り	carving made from a single tree trunk
絵巻物	picture scroll
写経	copying of a Buddhist sutra
奉納	dedicate to a temple
書院作り	traditional Japanese style of residential architecture
日本庭園	Japanese garden
茶道	the way of tea / the art of tea
茶の湯	the tea ceremony
侘び	austere refinement
寂び	deep mysterious beauty
侘び寂び	austere and elegant simplicity
幽玄	the subtle and profound
華道	the art of flower arrangement
生け花	the Japanese art of floral arrangement / bringing flowers to life
水墨画	ink painting
連歌	linked verse
浮世絵	Japanese woodblock print
枯山水	dry garden style

動植物概要（Flora and Fauna）

生物多様性	biodiversity
共生	symbiosis
弱肉強食	survival of the fittest
遷移	succession
極相	climax community
動物相	fauna
動物	animals
脊椎動物	vertebrate
哺乳類	mammal
鳥類	birds
両生類	amphibian
爬虫類	reptile
魚類	fishes
無脊椎動物	invertebrate
節足動物	arthropods
甲殻類	crustacea
昆虫	insects
貝類	shelfish
植物学	botany
植物相	flora
光合成	photosynthesis
植物	plants
常緑樹	evergreens
針葉樹	conifers

ツンドラ	tundra
広葉樹	broad leaved tree
落葉樹	deciduous trees
シダ	fern
コケ類	mosses
ゼニゴケ	liverwort
菌類	fungi (Fungus)
共生	symbiosis
共生体	symbiotic association
菌根菌	mycorrhizal fungi
地衣類	lichens
サルオガセ	old-man's beard
藻・海草（も・かいそう）	algae
エコシステム	ecosystem
生産者	producer
分解者	decomposers
草食動物	herbivores
偶蹄類	hoofed Mammals
捕食動物	predators
肉食動物	carnivores
雑食性動物	omnivore
猛禽類	raptor
哺乳類（Mammals）	
ニホンシカ	Japanese deer / a shika deer
シカ（オス）	stag
カモシカ（cf: 北米の mountain goat に近い）	Japanese serow
ツキノワグマ	Asiatic black bear
ヒグマ（cf: 北米の Grizzly bear に近い）	brown bear
アナグマ	badger
イタチ	weasel
ハクビシン	masked palm civet
テン	marten / Japanese sable
オコジョ	ermine
カワウソ	otter
ニホンリス	Japanese squirrel
モモンガ	Eurasian flying squirrel
ムササビ	giant flying squirrel
イヌ	canine
タヌキ	raccoon dog
キツネ	fox
キタキツネ	Ezo red fox
ニホンオオカミ（絶滅）	Japanese wolf
ヤマネコ	wild cat
モグラ	mole
ヤマネ	Japanese dormouse
ノウサギ	hare
イノシシ	Japanese boar / white-whiskered boar
ニホンザル	Japanese monkey / macaque
コウモリ	bat
アザラシ	seal
イルカ	dolphin
クジラ	whale

昆虫類（Insects）	
チョウ	butterfly
ガ	moth
セミ	cicada
コオロギ	cricket
スズムシ	bell cricket
マツムシ	pine cricket
ホタル	firefly
クワガタ	stag beetle
カブトムシ	Japanese rhinoceros beetle
カメムシ	stinkbug
マツクイムシ	pine bark beetle
ザトウムシ	harvestman
クモ	spider
シャクトリムシ	inchworm
ケムシ	hairy caterpillar
イモムシ	caterpillar
ミミズ	earthworm
ヒル	leech
マダニ	hard tick
シラミ	louse / 複数形：lice
蚊	mosquito
ハエ／コバエ	fly / a fruit fly
アリ	ant
ミツバチ	honey bee
スズメバチ	hornet / a wasp / a yellow jacket
オオスズメバチ	Japanese giant hornet
ハチの巣	beehive
トンボ	dragonfly
アキアカネ	red dragonfly
両生類・爬虫類（Amphibian & Reptile）	
イモリ	newt
ヤモリ	gecko / wall lizard
サンショウウオ	salamander
アマガエル	tree frog
ヒキガエル／ガマガエル	toad
モリアオガエル	polypedatid
トカゲ	lizard
ウミガメ	turtle
リクガメ	tortoise
スッポン	soft-shelled turtle
ヤマカガシ	tiger keel back
アオダイショウ	Japanese rat snake
クサリヘビ科	viperidae
ハブ	habu
マムシ	pit viper / mamushi
コブラ科	elapid
サンゴヘビ（ヒャン）	coral snake
Ocean（海洋）	
日本海	sea of Japan
対馬海流	the Tsushima current
暖流	warm current

太平洋側	pacific ocean side
黒潮（日本海流）	the Kuroshio current
親潮（千島海流）	the Oyashio current
寒流	cold current
水産物	sea foods
沖合漁業	offshore fishing
真珠と牡蠣の養殖	pearl and oyster culture
牡蠣と海苔の養殖	oyster and laver culture
金魚やコイの養殖	aquaculture of goldfish and carp
マグロの水揚げ	tuna landing
沿岸漁業	coastal fishing
水産業	the fishing industry
好漁場	great fishing ground
漁港	fishing port
漁獲高	catch
漁業	fishery
海の汚染	marine contamination
赤潮	red tide
水産加工業	the marine processing industry
200 海里経済水域	the 200 nautical miles economic zone
海産物（marine products）	
甲殻類（海）	crustacea (sea)
クルマエビ	prawn
イセエビ	lobster
シャコ	mantis shrimp
カニ	crab
タラバガニ	king crab
ズワイガニ	snow crab
ケガニ	hairy crab
ヤドカリ	hermit crab
甲殻類（淡水）	crustacea (fresh water)
サワガニ	freshwater crab
ニホンザリガニ	Japanese crayfish
貝類	shelfish
アサリ	short-necked clam
ハマグリ	clam
カキ	oyster
アワビ	abalone
ホタテ	scallop
サザエ	turban shell
タニシ	pond snail
シジミ	freshwater clam
その他	others
ウニ	sea urchin
イカ	squid
ホタルイカ	firefly squid
タコ	octopus
クラゲ	jellyfish
ヒトデ	starfish
ナマコ	trepang / sea cucumber
イソギンチャク	sea anemone
サンゴ	coral (coral reef)
フジツボ	barnacle
海藻	sea vegetable

ワカメ	wakame seaweed
コンブ	kelp
海水魚	a saltwater fish
トラフグ	torafugu / tiger puffer
ハリセンボン	balloon fish / porcupine fish
フグ	blowfish
ズワイガニ	snow crab
イワシ	sardine
シャケ	salmon
イクラ	salmon roe
タイ	sea bream
カツオ	bonito
カツオの一本釣り	single-hook fishing for bonito
マグロ	tuna
ハマチ	young yellow tail
ブリ	adult yellow tail
サバ	mackerel
アジ	horse mackerel
カレイ、ヒラメ	flatfish (flounder)
ハゼ	goby
タラ	cod
タラコ	cod roe
ニシン	herring
かずのこ	herring roe
キビナゴ	silver-stripe round herring
ホッケ	arabesque greenling
サンマ	saury
カジキ	spearfish / swordfish
カンパチ	greater amberjack
アンコウ	anglerfish
シシャモ	shishamo smelt
トビウオ	flying fish
アナゴ	conger / conger eel
エイ	ray / skate (fish)
シャチ	killer whale / grampus
サメ	shark
淡水魚	freshwater fish
カワマス	brook trout
ヒメマス	kokanee
アユ	sweet fish
イワナ	Japanese Char
コイ	carp
フナ	crucian
ウナギ	Japanese eel
ドジョウ	loach
ナマズ	catfish
マス	trout
サケ	salmon
ヤマメ	landlocked salmon
メダカ	Japanese killifish
ワカサギ	Japanese pond smelt
ウナギ	eel
野鳥（Birds）	
ワシ	eagle

オジロワシ	white-tailed eagle
トンビ	black kite
ハヤブサ	falcon
タカ	hawk
ミサゴ（魚食性のタカ）	ospry
フクロウ	owl
ミミズク	horned owl
ヒバリ	skylark
ウグイス	Japanese bush warbler
キセキレイ	grey wagtail
ホトトギス	little cuckoo
ツツドリ	Himalayan cuckoo
カッコウ	common cuckoo
ウソ	bullfinch
メボソムシクイ（ヒタキ科）	arctic warbler
オオルリ（ヒタキ科）	blue-and-white flycatcher
キビタキ（ヒタキ科）	narcissus flycatcher
ノビタキ（ヒタキ科）	stonechat
ルリビタキ（ヒタキ科）	red-flanked blue tail
アカゲラ（キツツキ科）	great spotted woodpecker
コゲラ（キツツキ科）	pigmy woodpecker
イワヒバリ（スズメ目）	alpine accentor
シジュウカラ（スズメ目）	great tit
ヒガラ（シジュウカラ科）	coal tit
コガラ（シジュウカラ科）	willow tit
ゴジュウカラ	Eurasian nuthatch
ミソサザイ	wren
キジ	common pheasant
スズメ	tree sparrow
キジバト	oriental turtle dove
カワガラス	brown dipper
アオジ（ホオジロ科）	black-faced bunting
イワツバメ	Asian house martin
コマドリ	Japanese robin
オシドリ	mandarin duck
ミコアイサ	smew
キンクロハジロ	tufted duck
ホシハジロ	pochard
マガモ	mallard
ライチョウ	ptarmigan / a snow grouse
樹木（Trees）	
モミ	fir
トウヒ	spruce
ツガ	Japanese hemlock
イチイ	yew
スギ	Japanese Cedar
イトスギ	cypress
ヒノキ	Japanese Cypress

サワラ	sawara cypress
シラカバ	birch / white birch / silver birch
ヤナギ	willow
クリ	Japanese chestnut
ナラ	oak
カシワ	Japanese emperor oak
カシ	evergreen oak tree
カツラ	Japanese Judas tree
ポプラ	poplar / an aspen / a cottonwood
ハンノキ	Japanese alder
カエデ	maple
カラマツ	larch / tamarack
サクラ	cherry tree
クルミ	walnut
ハイマツ	dwarf stone pine
アカシア	acacia
ウメ	plum tree
ゲッケイジュ	laurel / bay tree
ニレ	elm tree
クス	camphor wood
ヒイラギ	holly
トチ	horse chestnut
ブナ	beech
ヤナギ	willow
ナナカマド	mountain-ash
マツ	pine
マツボックリ	pine cone
切株	stump
液果（えきか）	berry
木	wood / tree
枝	twig / branch
大枝	limb / bough
小枝	stick
梢	treetop
林冠	canopy
幹	trunk
芽	bud / shoot / sprout
木材	wood / lumber / timber
種子	seed
根	root
葉	leaf / needle / foliage
宿り木	mistletoe
牧草	grass / pasture
穂	ear
稲穂	ear of rice
サヤ	pod
芝・芝生	lawn
蜜	honeydew / nectar
はちみつ	honey
花・植物（Flower・Plant）	
ヒヤシンス	hyacinth
ヒマワリ	sunflower
フキノトウ	butterbur scape
フクジュソウ	pheasant's eye

フジ	wisteria
アサガオ	morning glory
アザミ	thistle
アシ	reed
アジサイ	hydrangea
アヤメ	Siberian iris
ハナショウブ	Japanese iris
キンポウゲ	buttercup
シロバナエンレイソウ（シュロソウ科）	trillium tschonoskii
クロッカス	crocus
シロツメクサ／クローバー	clover
ツメクサ	Japanese pearlwort
ケシ	poppy
サクラソウ	primrose
クリンソウ	Japanese primrose
マツヨイグサ	evening primrose
キク	chrysanthemum
オオハンゴンソウ	cut-leaved coneflower
ヒヨドリバナ	boneset
キオン	alpine ragwort（the composite family）
スイセン	narcissus
スイレン	water lily
オトギリソウ	hypericum
トモエソウ	great St. John's wort
ハス	lotus
スズラン	lily of the valley
ツツジ	azalea
シャクナゲ	rhododendron
ツガザクラ	mountain heather
スミレ	violet
ゼラニウム（フウロ）	geranium
ハクサンフウロ	cranesbill
タンポポ	dandelion
ツクシ	horsetail
ツバキ	camellia
テッセン	clematis
クルマユリ	wood lily
カタクリ	katakuri / dog's tooth violet
オダマキ	columbine
トリカブト	aconite
ナデシコ	pink
ノイチゴ	wild strawberry
ヘビイチゴ	false strawberry
コケモモ	bearberry
ハマナス	rose hip
ノバラ	wild rose
シモツケ	Japanese spiraea
ヒナギク	daisy
ウサギギク	arnica
タデ	knotweed / knot-grass
イブキトラノオ	bistort / snakeweed
ヒナゲシ	corn poppy
ホウセンカ	touch-me-not

ワスレナグサ	forget-me-not
ハハコグサ	cottonweed
ボタン	peony
モクレン・コブシ	magnolia
ユキワリソウ	hepatica
ユキノシタ	saxifrage
コマクサ	dicentra / Japanese bleeding heart
ラン	orchid
ハクサンチドリ	key flower
ウメバチソウ	fringed grass-of-parnassus
リンドウ	gentian
キキョウ科	the bellflower family
キキョウ	bellflower / balloon flower
ホタルブクロ（ツリガネソウ）	spotted bellflower（campanula）
桜	cherry blossom
ワタスゲ	cotton grass
カンボク	viburnum
カラマツソウ	meadow rue
ズミ	toringo crab apple
クガイソウ（ゴマノハグサ科）	figwort
シシウド	caw parsnip
キリンソウ	goldenrod
オオカメノキ（レンプクソウ科）	viburnum furcatum
ワレモコウ	great burnet
ウツギ	deutzia
ギンリョウソウ	monotropastrum humile（mycorrhizal associations を通じ菌糸類 fungi との symbiosis によって生きている）
クガイソウ（オオバコ科）	veronica strum japonicum
ラシュウモンカズラ（シソ科）	meehania
バイカモ	Japanese water crowfoot / water buttercup
バイケイソウ（ユリ科）	white false hellebore
カズラ（ツルの総称）	vine
樹液	sap
花粉	pollen
おしべ	stamen
めしべ	pistil
開花	flowering
茎	stem / stalk
草	grass / plant
雑草	weed
球根	bulb
果物	fruit
どんぐり	acorn
松ぼっくり	pine cone
苗	seedling
つぼみ	bud
つる	vine
つる植物	creeper

とげ	thorn / spine / prickle
花	bloom / flower / blossom
花びら	petal
農産物（Agricultural Products）	
いちじく	fig
カブ	turnip
カラシナ	mustard
なす	eggplant
ピーマン	green pepper
きゅうり	cucumber
レタス	lettuce
セロリ	celery
白菜	Chinese cabbage
キャベツ	cabbage
穀物・穀類	grain
昆布	kelp
海藻	seaweed
海苔（のり）	laver
きのこ	fungus / mushroom
そらまめ	broad bean
ブロッコリー	broccoli
ほうれん草	spinach
二十日大根	radish
ダイコン	Japanese White Radish
発芽	sprouting
落花生	peanuts
柿	persimmon
柑橘類	citrus
ビワ	Japanese medlar
梅	Japanese plum
スモモ	prune
コンニャクイモ	elephant foot
ナシ	pear
らっきょう	pickled shallots
長芋	Chinese yam
カンピョウ	dried gourd shavings
菜の花	canola flower
ブドウ	grape / grapevine
ベニバナ	safflower
桃	peach / nectarine
薬草	medicinal herb
ハーブ	herb
野菜	green / vegetable
果樹栽培	fruit cultivation
病害	disease damage
保温苗代	protected nursery
実験農場	pilot faring
コメの生産調整	rice production adjustment
減反	acreage reduction
輪中	ring levee
用水	canal
園芸農業	horticulture
茶の栽培	tea growing
転作	crop rotation

養蚕	sericulture
農地改革	agricultural land reform
大地主	large landowner
自作農	land-owning farmers
品種改良	plant breeding
穀倉地帯	breadbasket
農作物	produce
畑作	upland farming
酪農	dairy farming
畜産	livestock raising / cow breeding
稲作	rice farming
観光牧場	guest ranch
稲の栽培	rice cultivation
水田	rice paddy
早場米	early rice paddy
二期作	dual cropping
二毛作	double cropping
裏作	off-season crop
不作	crop failure
サトウキビ	sugarcane
促成栽培	forcing culture
単作地帯	single crop area
多角的農業	diversified farming
近郊農業	suburban agriculture
高原野菜	vegetables grown on highlands

筆者
一般社団法人ウィルダネス メディカルアソシエイツ ジャパン（WMAJ)
代表理事　横堀　勇

カナダの大学にて環境学を学び、卒業後はカナディアンロッキーにて山岳技術を専門的に学ぶ。帰国後は富士山麓の自然学校にて環境教育やエコツアーを担当、また登山ガイドやケイビングガイドとしても過ごす。その後再びカナダに戻り、5 シーズンをロッキー山脈の登山ガイドとして過ごし、現在は日本で英語登山ガイドとして活動。野外 / 災害救急法にも高い専門性を持ち、日本各地で講習会を実施。

保持資格
WMA International：WEMT 救命士レベル
全国通訳案内士（英語）
信州山岳高原観光特例通訳案内士（英語）
Association of Canadian Mountain Guides：登山ガイド
公益社団法人日本山岳ガイド協会：登山ガイド ステージⅡ

英文校正
Dave Paddock, President, English Adventure

発行元
平成 30 年度訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（実証事業分）
外国人登山者ガイド養成による外国人登山促進事業
国土交通省北陸信越運輸局 観光部 企画観光課

本冊子の情報で生じた事故や争いごとについては、北陸信越運輸局では一切の責任を負いかねます。
Copyright © Hokuriku-Shin'etsu District Transport Bureau

インバウンド向け

登山ガイドハンドブック